Hokkaido University News

北大時報

令和4年

12

No. 825 December 2022

令和4年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏 第25回ソウル大学校-北海道大学ジョイントシンポジウムを開催 古河講堂のパープル・ライトアップを実施



目次

12



實金総長がNoMaps2022北大えぞ財団 入団記念セッションに登壇



北海道大学、富良野市と日本オラクルが スマートシティ推進に関する産官学連携協定を締結

■ 全学ニュース

- 1 令和4年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏
- 2 大学入学共通テスト 本学一般選抜個別学力検査等 実施体制等の決定
- 5 フロンティア入試合格者の発表
- 6 国際総合入試合格者の発表
- 7 帰国子女入試合格者の発表
- 8 宮脇 敬氏と宮脇慶子氏に紺綬褒章が授与
- 9 寳金総長がNoMaps2022北大えぞ財団入団記念セッションに登壇
- 10 北海道大学、富良野市と日本オラクルがスマートシティ 推進に関する産官学連携協定を締結
- 11 総長との保護者懇談会をオンラインにて開催
- 12 寳金総長が新渡戸カレッジで特別講演会を実施
- 13 令和4年度北海道大学総長奨励金並びに北海道大学私費外 国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行
- 13 令和4年度北海道大学進学相談会をオンライン開催
- 14 全学インターンシップ成果発表会及び経済同友会連携インターンシップ成果発表会を開催
- 15 国家公務員北大OBOG懇談会を開催
- 16 GPSを利用した構内循環バスの位置情報の確認 (実証実験) 及び区間延伸の運用を開始
- 17 カザフスタン・キルギス共和国合同オンライン日本留学フェアを開催
- 18 MIRAI2.0 Research & Innovation Week 2022に出席
- 19 寳金総長が「日中大学フェア&フォーラムオンライン」で基調講演
- 20 令和4年度北海道地方発明表彰を受賞
- 21 令和4年度第7回 定例記者会見を開催
- 22 北海道ガス株式会社と寳金総長との懇談会を開催
- 23 「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファ ンタジスタ札幌南高校にて6名の研究者が講義を実施
- 25 ウェブ特集「気候変動に挑む」を日本語及び英語で公開
- 26 北大フロンティア基金
- 29 令和4年度 第2回部局・分野横断技術交流会「SEMで身近な生物を見 てみよう~生物試料観察の理論と実践講座~その2 (実践編)」を開催
- 30 情報環境推進本部が情報セキュリティセミナーを開催
- 31 読売新聞北海道支社との連携講座サイエンスレクチャー2022 「はやぶさ2が見た リュウグウ誕生のひみつ」を開催
- 32 アンビシャス特別助教向けセミナー「クラウドファンディング説明会」を開催
- 33 第25回ソウル大学校 北海道大学ジョイントシンポジウムを開催
- 40 韓国アンバサダー・パートナー会の会合に寳金総長及び 横田理事・副学長が参加
- 41 寳金総長一行が豪メルボルン大学を訪問
- 42 新潟県議会総務文教委員会が本学のSDGsの取り組みを行政視察
- 43 アジア・サステイナブルキャンパス・ネットワーク (ASCN) 2022年次大会を開催
- 44 博士人材と企業の情報交換会 第50回「赤い糸会」を対面で開催
- 45 外国人博士人材と企業の情報交換会 CAREER LINK MEETUP 2022 (英語版赤い糸ONLINE) を開催
- 46 古河講堂のパープル・ライトアップを実施

部局ニュース

- 47 文学研究院がメルボルン大学と共同研究ワークショップを開催
- 48 経済学院・経済学研究院・経済学部が外国人留学生懇親会を開催
- 48 経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催
- 49 経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターがシンポジウムを開催
- 50 生命科学院が「第8回生命科学国際シンポジウム」を開催
- 51 工学系部局が自衛消防訓練等を実施
- 52 工学系部局が救急救命講習会を開催
- 53 医学研究院医理工学グローバルセンターが第6回医理工 学院 学生研究発表会/第6回企業研究交流会を開催
- 54 保健科学研究院公開講座 「ようこそ! ヘルスサイエンスの世界へ」 を開催
- 55 保健科学研究院と環境健康科学研究教育センターが「HU-SNU-MU 共同講義 Environmental Chemicals and Human Health (環境化学 物質と人びとの健康)」をバンコクにて開催
- 56 薬学研究院・薬学部が「実験動物慰霊祭」を挙行
- 56 令和4年度薬学部成績優秀賞授与式を挙行
- 57 水産学部附属練習船うしお丸Ⅲ世の竣工披露式を挙行
- 58 函館キャンパスに地域水産業共創センターを設置
- 58 地域水産業共創センターがキックオフイベント及び第1回地域懇話会を開催
- 59 人獣共通感染症国際共同研究所が「第10回人獣共通感染 症克服のためのコンソーシアム会議」をオンライン開催
- 60 附属図書館で「文献収集セミナー(文系の方向け)」講習会を開催
- 60 附属図書館で「Mendeley (メンデレー)」オンライン講習会を開催
- 61 スラブ・ユーラシア研究センターが境界地域研究ネットワークJAPAN・ 竹富セミナー「危機のなかの境界地域」を共催~3年ぶりに対面開催~
- 62 北方生物圏フィールド科学センターで畜魂祭挙行
- 63 令和4年度レジリエント社会・地域共創シンポジウム「海溝型地 震の被害想定と減災」(北海道大学広域複合災害研究センター・ 読売新聞北海道支社・一般社団法人国立大学協会共催)を開催
- 64 「脳科学研究教育センター研究発表会」の開催

Ⅰ表敬訪問 65

人事 66

66 新任教授紹介

訃報

67 名誉教授 土橋 由造 氏

資料

- 68 令和4年度外国人留学生数(令和4年11月1日現在)
- 69 令和4年度国別外国人留学生数(令和4年11月1日現在)
- 70 北大時報掲載記事事項別一覧



留学生採用証書授与式を挙行



韓国アンバサダー・バートナー会の会合に 寳金総長及び横田理事・副学長が参加



MIRAI2.0 Research & Innovation Week 2022に出席



寳金総長一行が豪メルボルン大学を訪問

表 紙: 古河講堂のパープル・ライトアップを実施(関連記事49頁に記載)

裏表紙:キャンパス風景33 フロンティア応用科学研究棟前(北区北13条西8丁目)

■全学ニュース

令和4年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏

本年度の医学教育等関係業務功労者として、本学から北海道大学病院看護部副看護師長の永井英子氏、北海道大学病院医療技術部主任診療放射線技師の横山英辰氏が表彰されました。

この表彰は、文部科学省が毎年、医学または歯学に関する教育・研究若しくは患者診療等の補助的業務に従事し、顕著な 功労のあった方々に対して行うものです。

各氏の表彰にあたっての感想を紹介します。

(社会共創部広報課)



お礼申し上げます。

北海道大学病院 看護部 副看護師長 ながい えいこ 永井 英子 氏

この度は医学教育等関係業務功労者として表彰を賜り、 身に余る栄誉と深く感謝申し上げます。表彰にあたり、ご 推薦、ご尽力いただきました関係各位の皆様に心より深く

私は昭和60年に北大病院に入職し、精神神経科、泌尿器科、眼科外来、眼科病棟、リハビリテーション科に勤務しました。平成17年に現在の精神神経科病棟に異動し、平成28年に認知症看護認定看護師の資格を取得して認知症の看護実践、院内研修・看護学生の講義、精神科リエゾンチームの活動などに携わってきました。認知症を持つ人への医療は日々進歩し、現在では急性期の医療を受けることが一般的になっています。このような時代の中、認知症の人が治療を受ける意思決定ができ、環境変化に適応して必要な医療を受けられ、早期に本来の生活の場に退院するための支援を院内全ての看護師が行えるように、実践力向上を目指して取り組んでおります。

一番長く勤務した精神神経科では、人権擁護と医療安全の狭間で葛藤することもありましたが、正解はなくとも最善を目指して、多職種チームで話し合いながら医療を提供してきました。また、この数年は、コロナ禍で社会情勢が不安定になる中で精神神経科にも影響が出ています。社会不安の影響を受けて精神疾患を持つ患者さん達の病状が悪化する、救急科経由で身体合併症を持った精神疾患患者さんの入院が増えるなど状況は厳しさを増しています。それでも勤務を続けられたのは、スタッフ同士が互いにメンタルヘルスケアする職場風土に恵まれ、出会った患者さん達からいただいた言葉が、更に研鑽するようにと私の背中を押してくれたためと考えております。

最後になりましたが、これまでご指導いただきました諸 先輩、歴代の看護部長、副看護部長、看護師長、同僚の皆 様に心から感謝申し上げます。



北海道大学病院 医療技術部放射線部 診療放射線技師 よこやま ひでとき **横山 英辰 氏**

この度はもったいなくも医学教育等関係業務功労者として表彰を賜り、深く感謝申し上げます。表彰にあたりまして、ご推薦、ご尽力いただきました関係各位の皆様に心より厚くお礼申し上げます。

放射線技師学校を卒業し、北海道大学医学部附属病院で勤務を始めた頃は、まだ放射線画像はX線フィルム出力に代表されるアナログの世界でしたが、程なくデジタル化し、病院が新築、病院機能全体がIT化されて行きました。その真っ只中で医療の進化を肌に感じながら仕事させて頂けたことは私の財産であります。また、学生への実習指導の機会を頂きましたが、色々な技術が提唱される中、こちらが勉強しないといけない追われる状況です。夜遅くまで残って実験し学会発表等もさせて頂いたことも思い出として残っております。

就職した時には想像もしていなかったことが発生しました。地震による長時間の大規模停電が発生し、病院の業務の遂行と家族との生活の確保と、皆が不安の中での非日常を体験いたしました。更に、新型コロナウィルスの世界的蔓延の中、北大病院でも感染患者対応に当たっております。この大規模な感染がいちにちも早く収束することを願ってやみません。

最後になりますが、これまでの諸先輩方、同僚ならびに 共に業務をさせて頂きました医師、看護師、メディカルス タッフ、医療情報の方々のご支援、お力添えに深く感謝申 し上げます。また、家族にも感謝いたします。これを励み に今後も「他の為にし、のち自らの為になせ」に沿い、公 私ともに精進してまいります。ありがとうございました。

(北海道大学病院)

(北海道大学病院)

大学入学共通テスト 本学一般選抜個別学力検査等 実施体制等の決定

11月24日(木)開催のアドミッションセンター試験場部会拡大会議において、令和5年度大学入学共通テスト及び本学ー 般選抜個別学力検査等に係る実施体制等を決定しました。

なお、大学入学共通テストについては、藤女子大学、天使大学、東海大学札幌キャンパス、北海道武蔵女子短期大学との 共同実施となります。

主な事項は、次のとおりです。

(学務部入試課)

大学入学共通テスト

1 実施本部の設置

試験実施について総括し、連絡・調整するため実施本部を設け、その下に総務部、試験場部、救急医療部、連絡部及び広 報部を置く。

2 試験場及び担当学部

(札幌市)

	試	験	場	•	会	場		試	験	場	所	担	当	学	部	等	
北	: 淮) 道	大	学	試	験	場										
	農	学		部	会		場	農	:	学	部	農		学			部
	人又	と 社会	科学	総合	教育研究	究棟会	会場	人文・	社会科学	ዾ総合教	育研究棟	※法 学	部	· #	圣済	学	部
	理	学		部	会		場	理	:	学	部	理		学			部
	工	学		部	会		場	工	:	学	部	工		学			部
	高	等教育	育 推	進札	機構	A 会	場	高等	改育 推進	焦機 構	E 棟 2 階	※教 育	学	部	・文	学	部
	高	等教育	育 推	進札	機 構]	B 会	場	高等	改育 推進	焦機 構	E 棟 3 階	※歯 学	当		薬	学	部
	保	健 科	学	研	究 院	会	場	保 傾	1 科	学 研	究 院	※医 学	部	• #	跃 医	学	部
	高	等教育	育 推	進札	幾 構]	N 会	場	高 等	教 育 推	進機	構N棟	実 施	本 部	・武	蔵女	子 短	大
藤	<i>5</i>	7 子	大	学	試	験	場	藤	女	子	大 学	※東海大	学・肩	泰女子ス	大学・	天使力	大学

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

(函館市)

試	験	場	試	験	場	所	担	当	学	部
	学水産学	部試験場	水	産	学	部	水	産	学	部

なお、ELMSを用いたオンデマンド形式でリスニング担当者説明会及び監督者説明会を開催しますので、監督者等となっ た方は必ず閲覧願います。

1 実施本部の設置

試験実施について総括し、連絡・調整するため実施本部を設け、その下に総務部、出題部、採点部、試験場部、救急医療 部、連絡部及び広報部を置く。

2 試験場及び担当学部

前期日程

試	験	場	試	験	場	所	担	[当	ž	学	部	
第1試験場	(農	部)	農	学	ż	部	農			学			部
第2試験場	(人文・社会科学	総合教育研究棟)	人文・	社会科学	総合教	育研究棟	※文	学	部	· 教	育	学	部
第3試験場	(理	常 部)	理	学	2	部	理			学			部
第4試験場	(歯 労	常 部)	歯	学	ż	部	歯			学			部
第5試験場	(工 等	部)	工	学	ż	部	工			学			部
第6試験場	(高等教育推進機	構E棟1階、2階)	高等教	育推進機	構E棟1	階、2階	※獣	医	学	部・	医	学	部
第7試験場	(高等教育推進	É機構E棟3階)	高等教	大育 推 進	機構I	E 棟 3 階	薬			学			部
第8試験場	(保健科学	学研究院)	保 健	科 学	研	究 院	※経	済	学	部・	法	学	部
第9試験場	(高等教育推進	É機構N棟2階)	高等教	文 育 推 進	機構1	N 棟 2 階	実		施	į	本		部

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

後期日程

試		験		場	試	験	場	所	担		当	学		部	
第1試験場	(農	学		部)	農	4	学	部	農			学			部
第2試験場	(人文・	社会科学組	念合教育研		人文・	社会科学	2総合教	育研究棟	※法	学	部・	経	済	学	部
第3試験場	(理	学		部)	理	4	学	部	理			学			部
第4試験場	(薬	学		部)	薬	4	学	部	薬			学			部
第5試験場	(工	学		部)	工	4	学	部	エ			学			部
第6試験場	(高等教	育推進機構E	棟1階、2階	7、3階)	高等教	育推進機構	E棟1階、	2階、3階	※教	育	学 剖		文	学	部
第7試験場	(獣	医	学	部)	獣	医	学	部	獣		医	:	学		部
第8試験場	(水	産	学	部)	水	産	学	部	水		産	:	学		部
第9試験場	(高等	教育推進	機構N核	東2階)	高等	教育推進	焦機構]	N 棟 2 階	実		施		本		部

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

なお、ELMSを用いたオンデマンド形式で監督者説明会を開催しますので、前期日程又は後期日程において、監督者等と なった方は必ず閲覧願います。

⁽上記9試験場で受験者を収容できない場合、別の試験場を設けることがある。)

⁽第6試験場は、高等教育推進機構大講堂、N1、N2の教室を含む。)

⁽第6試験場の2日目は医学部が担当する。)

令和5年度北海道大学入学試験

	種類		出願期間等	選考期	明日 (試験日)	合格発表日	入学手続期間	選考方法
(大学入	ィア入試Type 学共通テスト	を課す)		第1次選考	書類選考	R4.11.4(金)		
医学部(護学専攻 攻、検査 は常恵の	(地球惑星科 医学科、保健学 (、放射線技術 技術科学専攻、 、作業療法学	学科(看 計科学専 理学療		第2次選考	R4.11.20(日) 課題論文、面接	R4.12.8 (木) (医 (保)・エ (応) 除く)	R5.2.15 (水) ~2.20 (月)	個別学力検査を免除 し、大学入学共通テス ト、課題論文等及び面 接を課す。
イ 科 (応用ア ス)、環境	工学部 (応用理 マテリアルコ 竟社会工学科 ス))、水産学	「学コー (社会基	学生募集要項公表 R4.6.15 (水) ~公表中 インターネット出願登録期間	最終合格	R5.1.14 (土) ~1.15 (日) 大学入学共通テスト	R5.2.14 (火)		7女で 1本り。
(大学入: (理学部	学共通テストを記 (数学科、物理	アス試Type II 共通テストを課さない) 数学科、物理学科、 物科学科 (高分子機		第1次選考	書類選考	R4.11.4(金)	R4.12.12 (月)	大学入学共通テスト及 び個別学力検査を免除
能学専修 理工系学 ス)、機材	能学専修分野))、工学部(応用 理工系学科(応用物理工学コース)、機械知能工学科、環境社 会工学科(環境工学コース)))			第2次選考	R4.11.20 (日) 適性試験、面接	R4.12.8 (木)	~12.15 (木)	し、適性試験及び面接 を課す。
	学中募集要項公表			第1次選考	書類選考	R4.11.4 (金)	R4.12.12 (月)	
国際総合入試		子生券集安場公衣 R45.27 (木) ~公表中 インターネット出願登録期間 R4.9.22 (木) ~10.6 (木)		第2次選考	R4.11.20(日) 面接	R4.128 (木) ただし、条件付 合格の場合の最 終合格発表 R5.2.14 (火)	~12.15 (木) ただし、条件付 合格の場合は R5.2.15 (水) ~2.20 (月)	大学入学共通テスト及 び個別学力検査を免除 し、面接を課す。
			学生募集要項公表	第1次選考	書類選考	R4.11.4 (金)		大学入学共通テスト及
帰国子女入討	帰国子女入試		R4.5.27 (木) ~公表中 インターネット出願登録期間 R4.9.22 (木) ~10.6 (木)	第2次選考	R4.11.20 (日) 課題論文 (総合問題)、 面接	R4.12.8(木)	R4.12.12 (月) ~12.15 (木)	び個別学力検査を免除 し、課題論文等及び面 接を課す。
			受験案内公表	本試験	R5.1.14 (土) ~1.15 (日)			
大学入学共通	大学入学共通テスト		R4.7.8 (金) ~公表中 出願期間 R4.9.26 (月) ~10.6 (木)	追試験	R5.1.28 (土) ~1.29 (日)			※本試験を疾病等で受験 できなかった者が対象。
				第1段階選抜	大学入学共通テストの 成績による (志願者が多い場合)	R5.2.14 (火)		
一般選抜【注	Ĕ]	前期 日程	学生募集要項公表 R4.11.4 (金) ~公表中	第2段階選抜	R5.2.25 (土) 個別学力検査 R5.2.26 (日) 面接 (医学部医学科、 歯学部)	R5.3.8 (水)	R5.3.10 (金) ~3.15 (水)	大学入学共通テスト及び 個別学力検査等を課す。
		後期 日程	インターネット出願登録期間 R5.1.16 (月) ~2.3 (金)	第1段階選抜	大学入学共通テストの 成績による (志願者が多い場合)	R5.2.27 (月)	R5.3.23 (木)	大学入学共通テスト及び
		口仕		第2段階選抜	R5.3.12(日) 個別学力検査等	R5.3.20 (月)	~3.26(日)	個別学力検査等を課す。
			学生募集要項公表	第1次選考	書類選考	R5.1.24 (火)		大学入学共通テストを
私費外国人留	習学生(学部)	入試	R4.9.30 (金) ~公表中 インターネット出願登録期間 R4.12.19 (月) ~R4.12.23 (金)	第2次選考	R5.2.17(金) 小論文(総合問題)、 面接	R5.3.8 (水)	R5.3.10 (金) ~3.15 (水)	免除し、各学部が指定 する「第2次選考の実施 科目等」及び日本留学 試験を課す。
令和6年度 私費外国人留学生		第1期 募集	学生募集要項公表 R4.8.18 (木) ~公表中 インターネット出願登録期間 R4.10.26 (水) ~11.17 (火)		R5.1.10 (火) ~R5.1.17 (火) 書類選考、面接	R5.2.14 (火)	R5.2月	書類選考及び面接を課
(現代日本学プログラム 課程)入試 (令和6年4月入学)	第2期 募集	学生募集要項公表 R48.18 (木) ~公表中 インターネット出願登録期間 R5.21 (水) ~R5.2.24 (金)		R5.4.7 (金) ~R5.4.14 (金) 書類選考、面接	R5.5月 中旬 R5.5月		す。	
私費外国人留	習学生.		学生募集要項公表	第1次選考	書類選考	R5.2.14 (火)		
和資外国人留字生 (Integrated Science Program (学士課程)) 入試 (令和5年10月入学)		R5.6.14 (火) ~公表中 インターネット出願登録期間 R4.11.15 (火) ~11.30 (水)	第2次選考	R5.2.20 (月) ~R5.3.3 (金) 面接	R5.3.23 (木)	R5.3月	書類選考及び面接を課す。	

【注】
出願した者の内、「新型コロナウイルス感染症に罹患又はその疑いにより受験できなかった者」を対象として、追試験をR5.3.22 (水) に実施する。なお、追試験の合格発表はR5.3.26 (日) に行い、入学手続期間はR5.3.27 (月) ∼3.30 (木) とする。

(学務部入試課)

フロンティア入試合格者の発表

令和5年度フロンティア入試(総合型選抜)は、募集人員144名(Type I:78名、Type I:66名)に対し、365名(Type I:122名、Type II:243名。昨年度から47名増加)の出願がありました。自己推薦書、個人評価書等の出願書類による第1 次選考合格者に対して、11月20日(日)に第2次選考の課題論文、適性試験及び面接試験を実施し、12月8日(木)に合格者 発表が行われ、TypeⅡでは64名が最終合格となりました。

なお、大学入学共通テストを課すType I の最終合格者発表は、2月14日(火)を予定しています。

(学務部入試課)

令和5年度フロンティア入試合格者数等一覧

	学部・学科等			募集人員	志願	者数	倍 率	第 2 <i>ð</i> 合格		最終 合格者数	
	理学	部地球	求惑星科学科	5	20	(2)	4.0	4	_	2/1413	戏主
		医学		5	10	(6)	2.0	1	-	2/14/~	光衣
			看護学専攻	7	10	(10)	1.4				
	医学	保健	放射線技術科学専攻	7	11	(7)	1.6	2/14%			
	医学部	保健学科	検査技術科学専攻	10	6	(4)	0.6			こ発表	
Т	H-Jr	科	理学療法学専攻	4	7	(6)	1.8				
у р			作業療法学専攻	7	3	(3)	0.4				
е	歯学			5	10	(6)	2.0	5	(3)	2/14/3	発表
I	応用理工系学科			4	1	(1)	0.3		2/14%	2発表	
	学部		社会工学科 会基盤学コース)	4	2	(1)	0.5	2	(1)	2/14/3	発表
	水産	学部		20	42	(14)	2.1	20	(10)		
			小 計	78	122	(60)	1.6	32	(14)	0	(0)
		数学		13	71	(8)	5.5	13	(2)	13	(2)
	理	物理	学科	14	35	(4)	2.5	14	(1)	14	(1)
	理学部	化学		11	27	(8)	2.5	11	(1)	11	(1)
Ty	借		科学科 分子機能学専修分野)	3	11	(5)	3.7	1	_	1	-
p e II	Т		理工系学科 用物理工学コース)	15	38	(4)	2.5	15	(1)	15	(1)
Ш	工学部	機械	知能工学科	5	31	(6)	6.2	5	(1)	5	(1)
	部 環境社会工学科 (環境工学コース)		5	30	(8)	6.0	5	(2)	5	(2)	
	小 計			66	243	(43)	3.7	64	(8)	64	(8)
			計	144	365	(103)	2.5	96	(22)	64	(8)

^{※ ()} 内の数字は、道内高校出身者で内数。

国際総合入試合格者の発表

国際総合入試は、「北海道大学近未来戦略150」に掲げるグローバル人材の育成のため、国や地域、学問分野を超えた ボーダーレスなグローバル社会を生き抜き、リードする意欲と資質を持った人材を人物本位で選抜することを目的として平 成30年度入試より導入したもので、主な対象者を国際バカロレア資格の取得者等としています。

令和5年度国際総合入試は、募集人員15名に対し、36名の出願がありました。自己推薦書、志望理由書等の出願書類によ る第1次選考合格者に対して、11月20日(日)に第2次選考の面接試験を実施し、12月8日(木)に合格者発表が行われ、14 名が合格しました。このうち、12名は国際バカロレアの最終スコアが1月に発表のため、条件付合格となっています。

なお、条件付合格者の最終合格発表は、2月14日 (火) を予定しています。

(学務部入試課)

令和5年度国際総合入試合格者数等一覧

学部	3・学科等	募集人員	志願者数	倍率	合格者数 (条件付合格者含む)	最終合格者数
総合	文系	5	9 (6)	1.8	5 (4) [4 (3)]	2/14に発表
入試	理系	10	27 (13)	2.7	9 (6) [8 (5)]	2/14に発表
	計	15	36 (19)	2.4	14 (10) [12 (8)]	2/14に発表

※ () 内の数字は、女子で内数。

※ []内の数字は、条件付合格者数で内数。

帰国子女入試合格者の発表

令和5年度帰国子女入試は、11学部に52名の出願がありました。出願書類による第1次選考合格者に対し、11月20日(日) に第2次選考の課題論文等と面接試験を実施し、12月8日(木)に合格発表が行われ、8名が合格しました。

(学務部入試課)

令和5年度帰国子女入試合格者数等一覧

		学	常・学科等	募集 人員	志願者数	合格者数
文学	全部				4 (2)	1 (1)
	ず学部				1 (1)	
法学	法学部				3 (1)	1 -
経済	学部				1 -	
	数学	科			1 -	
	物理	学科	ł		1 (1)	
理学部	化学	科			= =	
部	生	物	生物学専修分野		1 (1)	
ПР	科学	科	高分子機能学専修分野		3 (2)	1 (1)
	地封	惑星	具科学科		1 (1)	
	医学	科			7 (4)	
			要 学専攻	若干名	2 (2)	
医	保		付線技術科学専攻			
医学部	保健学科	検3	全技術科学専攻	名	1	
"	科		学療法学専攻		-	
		作業				
歯学						
薬学	全部				4 (2)	
			二系学科		-	
工学部			クトロニクス学科		12 (2)	2 (1)
部	機械	知能	2工学科		4 (1)	1 (1)
	環境社会工学科				2 (1)	1 -
農学	農学部				1 (1)	1 (1)
獣医	獣医学部				1 (1)	
水産	水産学部				3 (2)	
	計				52 (25)	8 (5)

^{※()}内の数字は、女子で内数。

敬氏と宮脇慶子氏に紺綬褒章が授与



寶金総長と宮脇 敬氏

北大フロンティア基金へ多額の寄附 を賜りました宮脇 敬氏及び慶子氏 (ご欠席) に紺綬褒章が授与されまし た。

宮脇 敬氏は昭和32年3月に本学工 学部土木工学科を卒業後、宮脇産業株 式会社(その後宮脇建設株式会社に社 名を変更) へ入社し、代表取締役社長 を経て代表取締役会長に就任、MGホ ールディングス株式会社(現宮脇グル ープホールディングス株式会社) 代表 取締役を経て取締役会長に就任、宮脇 大木建設株式会社(旧宮脇建設株式会 社) 代表取締役を退任後、同社取締役

相談役を経て、現在、宮脇グループホ ールディングス株式会社取締役相談役 を務めておられます。

この度は、宮脇 敬氏及び慶子氏か ら「学部等支援:工学部 沿岸海洋工 学研究室」へそれぞれ寄附を賜りまし た。

伝達式は、11月14日(月)に北海道 大学事務局役員会室にて行われ、本学 関係者が見守る中、寳金清博総長から 宮脇 敬氏には飾版と褒章記、慶子氏 には褒章記がそれぞれ伝達されまし

※紺綬褒章とは、公益のために私財(個人 の場合500万円以上、法人の場合1.000万 円以上)を寄附した者を対象に、表彰さ れるべき事績の生じた都度、各府省等の 推薦に基づき審査され、授与されるもの です。

国、地方公共団体又は公益団体(公益 を目的とし、法人格を有し、公益の増進 に著しく寄与する事業を行う団体であっ て、当該団体に関係の深い府省等の申請 に基づき賞勲局が認定した団体) に対す る寄附が授与の対象となります。

(社会共創部広報課)

寶金総長がNoMaps2022北大えぞ財団入団記念セッションに登壇

10月22日(土)、寳金清博総長、黒 岩麻里総長補佐 (理学研究院教授) が、NoMaps2022トークセッション 「北大えぞ財団入団記念!北大のリソ ース、全部見せます!北海道大学が地 域と繋がり、新たなチャレンジへ! に登壇しました。

NoMapsは、北海道でクリエイティ ブな発想や技術によって、次の社会・ 未来を創ろうとする人たちのための交 流の場(コンベンション)となってお り、毎年イベントが開催されていま す。本年は「NoMaps2022」と題して 様々な催しが開催されており、寳金総 長と黒岩総長補佐が参加したトークセ ッションもそのうちの一つでした。

本トークセッションは、本学が今年 7月にえぞ財団へ法人入団したことを 記念して実施されました。えぞ財団 は、メディア事業・教育事業・投資事 業を軸に、北海道がもっと元気になる ための活動に取り組んでいる北海道経 済コミュニティです。

寳金総長及び黒岩総長補佐と共に登 壇したのは、サッドラHD株式会社の 富山浩樹代表取締役社長兼CEOとマ ドラー株式会社の成田智哉代表取締役 です。4名は「北海道を良くするため に、北海道大学が民間や行政と一緒に できることとは。」をテーマに、北大 の紹介とフリートークを行いました。 当日の会場では、終始和やかな雰囲気 で歓談が進み、一般の方が多数聴講参 加していました。

本トークセッションのイベントレポ ート及びアーカイブ動画を公開してい ますので、下記QRコードからぜひご 覧ください。



イベントレポートページのQRコード (この先にアーカイブ動画のリンクあり)

(学務企画課大学院教育改革推進室)



トークイベントのカバー画像



トークセッションの様子



登壇者4名の記念撮影

北海道大学、富良野市と日本オラクルがスマートシティ推進に 関する産官学連携協定を締結

10月27日(木)、北海道大学(総長 寳金清博)、富良野市(市長 北 猛 俊) と日本オラクル株式会社(取締役 執行役 社長 三澤智光、以下「日本オ ラクル」)は、富良野市特有の産業の 発展、住みよいまちづくりに向け、同 市のスマートシティ推進の通り施策を 共同で立案することを目的として、 「北海道富良野市のスマートシティ推 進に関する産官学連携にかかる協定し

3者は令和3年度から、「北海道大学 博士課程DX教育プログラム:北海道 富良野市のスマートシティ推進支援」 プロジェクトに取り組んでいます。令

を締結しました。

和4年度においても、富良野市の新た な課題について取り組みを進めてお り、継続的な実施を含めた相互の連携 による今後の発展を目指し、今回、産 学官連携協定の締結に至りました。

3者がそれぞれ、「Society5.0時代の 地方」、「Society5.0時代の産業界」、 「Society5.0時代の高等教育」とい う、「将来のあるべき姿」を念頭に、 官民データ活用を通じた協働の取組を 推進しながら、あらゆる人が安全で安 心して暮らせる社会及び快適な生活環 境の実現に向け、地方創生として「ひ と・モノ・情報がつながるスマートシ ティ富良野」の一層の発展に共同で寄 与することを目指します。

当日は、本学において3者による締 結式を行い、併せて、本事業に参画し ている博士課程学生2名による成果発 表も実施しました。



締結発表のプレスリリースQRコード

(学務企画課大学院教育改革推進室)



締結時の記念写真





博士課程学生による成果発表

総長との保護者懇談会をオンラインにて開催

学士課程1年次在籍者の保護者と総 長が、直接意見交換・質疑応答を行う ことを目的として、10月27日(木)に オンラインによる懇談会を開催しまし た。昨年度に続き、2回目の開催とな りましたが、今回も全国各地から49名 の保護者の参加がありました。

最初に、寳金清博総長からの挨拶と 大学のビジョンについての説明、また 応募時に事前に寄せられた保護者から の意見を踏まえた形での説明をいただ きました。

続いて、山口淳二理事・副学長か ら、本学の歴史や基本理念、国際交流

や学生支援活動の紹介があり、新渡戸 カレッジ及び校友会の活動にも触れら れ、本学の教育について様々な視点か ら情報提供を行っていただきました。

また今回は、本年4月に設置された ダイバーシティ・インクルージョン推 進本部副本部長の矢野理香副理事か ら、本学における多様性やダイバーシ ティ・インクルージョン推進に向けた 取り組みなどについて紹介がありまし

意見交換・質疑応答では、本学の強 みを生かした学部横断的な学生の交流 や、数理・データサイエンス教育、ダ

イバーシティ・インクルージョン推進 等について様々な意見や質問が寄せら れ、北大側出席者から、保護者の立場 に寄り添いながら一つ一つ丁寧に説明 がなされました。

懇談会は、「卒業式では是非対面で お会いしたい」という総長の挨拶で締 められ、大学と保護者の方々との相互 理解を深める大変有意義な機会となり ました。

(高等教育推進機構総合教育部)



保護者と意見交換される寳金総長、山口理事・副学長、矢野副理事



高等教育推進機構での配信の様子

寳金総長が新渡戸カレッジで特別講演会を実施

新渡戸カレッジでは、11月2日(水) に高等教育推進機構において、寳金清 博総長・新渡戸カレッジ校長の講演会を 開催しました。寳金総長は「Introduction of the President of Nitobe College and Hokkaido University」と「University and Society」について、英語で講演さ れました。

講演会には、基礎プログラム学部教 育コースの学生を中心にオナーズプロ グラム生や教職員などが多数、参加し ました。

講演は、ご自身の趣味や特技、学生 時代に打ち込んだスポーツ等の貴重な 体験について、ユーモアを交えながら

始まり、やや緊張気味だった会場の雰 囲気を徐々に和らげていき、本題であ る「University and Society」へと進ん でいきました。

「University and Society」では、古 代ギリシャの町は教育を中心に発展 し、教育の中心にある大学が社会の基 本的な要素であり、言い換えれば、よ い国や地域は優れた大学や教育機関を 擁していると話されました。

このような社会の発展と大学の関係 を紹介しながら、話は本学の歴史に関 することから将来についての話題とな り、「Hokudai Vision 2030」と題した 未来計画についても披露されました。

まさにタイムリーな話題だけに、学生 のみならず教職員も興味を引く内容で あったため、参加者はスクリーンに映 し出されるダイナミックな戦略に見入 っていました。

質疑応答ではたくさんの学生が質問 に立ちました。

講演会が終了した後も、総長の元に は個別に質問をしようと長い列がで き、その一人一人に対して、丁寧に答 えていた総長の姿が印象的でした。

(学務部教育推進課)



講演会場の様子

令和4年度北海道大学総長奨励金並びに北海道大学私費外国人 留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行

11月8日 (火)、高等教育推進機構に おいて、令和4年度北海道大学総長奨 励金並びに北海道大学私費外国人留学 生特待プログラム留学生採用証書授与 式を挙行しました。

北海道大学総長奨励金は、学業成績 が極めて優秀な外国人留学生の受入れ 促進を目的として、平成18年度に開始 された制度です。大学院での学位取得 を目指し、協定校等から推薦された者 を選考の上、受入れを行っています。

北海道大学私費外国人留学生特待プログラムは、学業成績が優秀かつ国際的な貢献に寄与する人材を育成することを目的とし、平成20年度に開始された制度です。大学院に入学する私費外国人留学生を対象にしており、研究分野、研究の課題等を明確にしたプログラムに基づき受入れを行っています。

授与式には採用者17名のうち11名が

出席しました。山口淳二理事・副学長から採用者一人ひとりに採用証書が授与され、続いて、「心豊かな学生生活を送るとともに、これから各自が進めようとしている研究計画を必ず達成し、後に続く外国人留学生の目標となってください」との祝辞が述べられました。

(学務部学生支援課)



全員での記念撮影



山口理事・副学長から証書授与

令和4年度北海道大学進学相談会をオンライン開催

10月2日(日)及び30日(日)に北 海道大学進学相談会をオンライン開催 しました。

令和元年度までは、東京及び大阪の会場にて開催していましたが、一昨年度及び昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、オンライン形式での開催となりました。

今年度は、13学部等によるグループ 相談に加え、各日午前中に個別相談を 実施したほか、アクセシビリティ支援 室による障害等にかかる個別相談や、 北大キャンパスビジットプロジェクトによる現役北大生への質問ができる相談会等、趣向を凝らし開催しました。 2日間で延べ479名の参加があり、参加者からの相談に各学部等の教職員等が対応しました。

開催後の参加者からのアンケートでは、従来の対面形式での開催を望む意見もありましたが、「悩みがたくさんあったのですがほぼ解消できて、また勉強を頑張れそうです」「オンラインで緊張しましたが、とても親切に丁寧に対応いただき、たいへん参考になり

ました」「ホームページに載っている 資料の活用方法がよく分かりました」 「個別相談、グループ相談ともに人数 がちょうどよく、贅沢な相談会でし た」「どの先生方も真摯に、かつ明確 に回答くださり、感激しました。北大 入学を熱望する娘の気持ちがよく理解 できました」等、受験生や保護者の方 から、好意的な意見を多くいただきま

(アドミッションセンター)

全学インターンシップ成果発表会及び 経済同友会連携インターンシップ成果発表会を開催

10月26日(水)及び11月18日(金)、 令和4年度に実施した北海道大学全学 インターンシップの成果発表会を開催 しました。

全学インターンシップはインターン シップ先の企業・団体等の開拓や調 整、学生の選考、インターンシップ参 加前や参加後の学生への研修に大学が 関与する、正課の全学教育科目として のインターンシップ制度です。夏季休 業中に原則8日間程度以上のインター ンシップを推進しており、就業体験に おける教育効果を高めています。

今年度は、学部1・2年生限定で経済 同友会と連携した特別インターンシッ プ参加者11名を含む、計76名の学生が 全学インターンシップに参加しました。

10月26日(水)、全参加学生を対象 とした成果発表会をオンラインで実施

しました。グループに分かれて、自分 のインターンシップでの学びや経験を 発言することで振返りをし、さらに全 体に向けて発表を行いました。学生を 受け入れた企業・団体等の関係者から それぞれのグループでの話し合いや全 体の発表の様子を見学し、受け入れを した感想や学生へのメッセージなどを フィードバックをいただきました。

11月18日(金)、学部1·2年生限定 で実施した「経済同友会と連携したイ ンターンシップ」参加学生による成果 発表会をハイブリット形式で実施しま した。本インターンシップは学部1・2 年生に限定して実施するインターンシ ップです。従来3~4週間程度、より教 育的要素を強くした長期インターンシ ップとして実施していますが、今年度 も期間は短くなったものの対面とオン

ラインで実施し、学生11名が参加しま

参加学生は、インターンシップの内 容やインターンシップ前に設定した仮 説やその検証結果、今後の学生生活で 心がけたいことなどについて、それぞ れスライドを用いてプレゼンテーショ ンを行いました。受入企業や経済同友 会関係者、学内関係者、次年度の参加 を検討する学生など多くの見学者も参 加し、また、オープンエデュケーショ ンセンターの協力も得て会場とオンラ インをスムーズにつなぎ、活発な質疑 応答や対話が行われました。

次年度以降は、大学院生を対象とし た全学的な正課としてのインターンシ ップの新設も検討しています。

(キャリアセンター)

全学インターンシップ成果発表会

時:2022年10月26日(水)18:30~20:30

場:オンライン(Zoom)

参加対象:全学インターンシップに参加した学生 受入企業・団体等

経済同友会連携インターンシップ成果発表会(学部1・2年生限定)

時:2022年11月18日(金)16:40~19:40

場:情報教育館スタジオ型研修室(対面)・オンライン配信(Zoom) 参加対象:全学インターンシップに参加した学生 受入企業・団体、関係団体等

開催協力:大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター



開催挨拶を行う高等教育推進機構の亀野 淳教授



質問やコメントを行う山口淳二理事・副学長



経済同友会連携インターンシップ成果発表会参加者

※写真はいずれも11月18日開催時のもの

国家公務員北大OBOG懇談会を開催

キャリアセンターでは、公務員を志 望する学生を対象に各種イベントを実 施しています。その一環として、11月 19日(土)、国家公務員北大OBOG懇 談会を31LABOにて開催しました。

霞が関の各府省庁で働く北大OBOG 等の職員の方と、公務員に関心のある 北大生との懇談の場を設けることで、 先輩職員の方はどのように国家公務員 を目指したのか、各府省庁での仕事な どについてリアルなお話を伺う機会と なるよう、企画・実施しました。

コロナ禍で2020年度から就職支援や 業務説明会などのイベントは全てオン ラインで実施してきましたが、今回は 3年ぶりに対面でのイベント開催とな

りました。

実施にあたっては、完全予約制とし て参加人数を制限、各省庁のグループ 毎に時間帯と会場を分け、換気、消 毒、マスク着用等の対策と参加者の協 力を得て無事開催することができまし た。

当日は、文部科学省、財務省税関、 警察庁、厚生労働省、特許庁、防衛 省、金融庁、農林水産省、経済産業 省、総務省の10省庁から北大OBOGの 若手職員の方に参加いただき、学生は 計58名が参加しました。

国家公務員の仕事の実態、どのよう な業務を担当し、やりがいを感じてい るか、また学生時代にどのように公務

員試験の対策をしたか、官庁訪問の経 験などについて多くの質問が寄せら れ、対面ならではの活発な意見交換の 場となりました。

北大からは毎年多くの公務員就職実 績があり、今後も北大OBOGの先輩方 と公務員を志望する学生の繋がりを持 てる場を作っていきたいと考えていま

キャリアセンターウェブサイト(公務 員ページ)

https://cc.academic.hokudai.ac.jp/civil_servant/

(キャリアセンター)

開催日時 令和4年11月19日 (土) 14:00~20:40

場:31LABO(札幌市北区北13条西4丁目1-2)

催:キャリアセンター・運営協力: (株) オガワヤ・13LABO 主

参加対象:公務員に関心のある北大生 (学部・学年不問)

参加団体: 文部科学省、財務省税関、警察庁、厚生労働省、特許庁、防衛省、金融庁、

農林水産省、経済産業省、総務省





懇談会当日の模様

GPSを利用した構内循環バスの位置情報の確認(実証実験) 及び区間延伸の運用を開始

12月1日(木)より、構内循環バス のGPSを利用した位置情報をパソコン やスマートフォンから確認できるよう になりました。また、5日(月)より 運行区間の終点を北キャンパス総合研 究棟2号館からフード&メディカルイ ノベーション国際拠点に、西へ100m 延伸しました。

GPSを利用した運行状況の確認につ いては、汎用アプリケーションを利用 した運用の検討をしてきましたが、コ スト負担が大きいことや利用者のセキ ュリティ確保に課題があり実現するこ とはできませんでした。この度、産 学・地域協働推進機構の土屋 努副理 事、山本 強名誉教授にご相談する機 会が得られたことで、今回の検証をす るに至ったものです。

このシステムはLPWA通信インフ ラ、GPS車載器、サービスアプリケー ションのすべてに産学・地域協働推進 機構 先進ITプロトタイプ研究部門の 成果が活かされております。LPWA基

地局では、外部電源に頼らない小型太 陽光パネルのみで稼働するため、本学 が第4期中期目標で掲げたSDGs達成に も通じるものです。また、近距離運行 の循環バスでは、位置情報を高頻度・ 低遅延で端末まで伝送することが重要 です。

本システムでは多数の端末に低遅延 で情報配信するために、先の研究部門 が開発したMQTTRPCプロトコルと いう技術を搭載し、ほぼリアルタイム で循環バスの位置を通知することが可 能となっています。今後、現有バスを 利用した実証実験を重ね、本システム の有効性を確認するとともに、ここで 培われた技術が他分野へ展開していく など、社会の発展に寄与することを願 っています。

区間の延伸については、これまでフ ード&メディカルイノベーション国際 拠点へ通ずる道路が狭く、マイクロバ スの転回が出来ない課題がありまし た。この度、北キャンパスエリア関係

教職員の皆様の尽力により転回場所の 確保ができ、循環バス受注業者との協 議により延伸の実現に至りました。

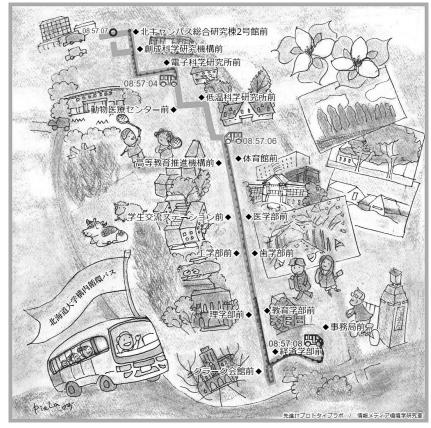
構内循環バス運行事業については、 引き続き安全安心の確保及び需要状況 等に応じた運行体制を目指してまいり ますので、教職員の皆様におかれまし ては、業務で構内を移動される際にご 活用ください。また、乗車の感想やご 意見等もお待ちしております。

なお、循環バスの位置情報は、下記 よりいつでもご確認いただけますの で、どうぞご利用ください。

SSO>デスクネッツネオ>ブックマー ク(共有)>構内循環バス

※URLは学外からでもアクセス可能で すが、学外の方にお知らせすること は避けてください。

(施設部環境配慮促進課)



バス位置情報確認画面

カザフスタン・キルギス共和国合同オンライン日本留学フェアを開催

ロシアモスクワオフィスでは、カザ フスタン日本人材開発センター、キル ギス日本人材開発センター、筑波大学、 新潟大学と共催で、10月22日(土)か ら28日(金)の1週間にわたり、カザ フスタン・キルギス共和国合同オンラ イン日本留学フェアを開催しました。

本フェアはカザフスタン日本人材開 発センター及びキルギス日本人材開発 センターが筑波大学と合同で令和2年 から毎年開催しており、3回目となる 今回は、文部科学省より日本留学海外 拠点連携推進事業を受託している本学 も共催機関として出展しました。

カザフスタンやキルギスなど中央ア ジアでは、人口が増加傾向にあり、年 少人口を含む若い世代も多いことか ら、例年本フェアには1.000名を超え る参加があります。今年は1,619名が 参加し、現地における高等教育や留学 に対する関心の高さが窺えました。

フェア初日は、全体共通セッション

として、日本学生支援機構や日本国大 使館からの日本留学の概要やMEXT 奨学金についての説明、日本留学経験 者による留学体験談の発表、質疑応答 などを行いました。また、2日目から は、大学や日本語学校などの14の教育 機関による個別セッションとして、 各々の機関が有するプログラムの紹介 や質疑応答などが行われました。

本学の個別セッションは10月25日 (火) に行われ、徳田由佳子留学コー ディネーターによる本学の全体概要説 明、沖野龍文教授による環境科学院の 紹介、相沢智康教授による生命科学院 の紹介を行いました。88名の参加者か らはチャットで多くの質問が寄せら れ、活発な質疑応答が行われました。 また、それらの質問内容や後日実施さ れた参加者へのアンケート調査の結果 から、学部で開講している英語プログ ラムよりも大学院への関心が圧倒的に 高いことが窺えました。カザフスタン

及びキルギスの中等教育は11年制であ るため、日本の大学に入学するために は渡日後1年の準備課程を修了する、 もしくは自国の大学に進学し、2年次 に日本の大学に入学する必要があるこ とが関係していると考えられます。

両国を始めとしたCIS地域における 「留学先としての日本」への関心は 年々高まっており、より細やかでタイ ムリーな留学情報の発信・伝達が求め られています。今後もこれら留学志向 の高い若者に溢れる国々に向けて、本 学を含む日本の教育機関で学ぶことの 面白さ、また、国費留学生優先配置プ ログラムや各機関や部局等が有する奨 学金や授業料減免の制度に関する情報 など、留学を考えている人々にとって 魅力的かつ有益な情報を積極的に発信 することで、優秀な留学生の獲得に努 めていきます。

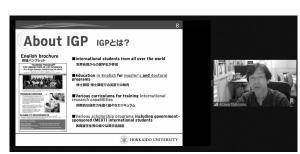
(国際部国際連携課)



本学の全体概要説明を行う徳田留学コーディネーター



環境科学院について紹介する沖野教授



生命科学院IGPプログラムについて紹介する相沢教授



司会者兼通訳を介して行った質疑応答の様子

MIRAI2.0 Research & Innovation Week 2022に出席

本学が加盟する国際コンソーシアム MIRAIのメインイベントである「MIRAI2.0 Research & Innovation Week 2022 が、11月15日 (火) から18日 (金) の 4日間に渡り、九州大学で開催され、 横田 篤理事・副学長がオンライン出 席したほか、本学から6名が現地出席 しました。

MIRAIは、日本とスウェーデンの連携 強化及び学術交流の促進を目的として 2017年に発足したもので、現在第2期目 を迎えており、本学を含む日本側参加 大学9校、スウェーデン側参加大学11校 の計20校がAgeing、AI、Innovation & Entrepreneurship, Materials Science, Sustainabilityの5分野において活動し ています。

コロナ禍の影響により、3年ぶりの 実地開催となった本イベントには、日 瑞の加盟大学を中心として約300名が 参加し、これまで叶わなかった対面で

の交流を深める機会となりました。

初日は、開会式に続いて加盟校の代 表者が一堂に会するGeneral Assembly Meetingが行われ、横田理事・副学長 が出席しました。これまでの活動や成 果を振り返るとともに、2024年から始 まるMIRAI3.0に向けて、今後の方向 性やあり方について活発な議論が交わ されました。

2日目からは各分野に分かれ、パラ レルセッションが行われました。各セ ッションでは、シニア研究者による基 調講演に加え、若手研究者の口頭発表 やワークショップが数多く行われまし た。本学からはMaterials Scienceセッ ションにおいて、長谷川靖哉総長補佐 がモデレーターを務めたほか、工学研 究院の忠永清治教授、理学研究院の小 林厚志准教授、触媒科学研究所の高草 木達准教授が口頭発表を行いました。 また、Sustainabilityセッションでは、

SGDs事業推進本部の加藤 悟教授が モデレーターを務め、基調講演や若手 研究者によるワークショップに加え、 Seed Funding Project採択者による共 同研究の進捗報告が行われました。

最終日には若手研究者による「科学 と倫理」と題したダイアログが行われ たほか、分野の垣根を超えた活動や連 携可能性について、各分野代表者から 提案が行われました。

今回を機に生まれたネットワークが 今後さらに発展し、具体的な共同研究 や連携強化に繋がっていくことが期待 されます。次回のMIRAI Research & Innovation Week 2023は2023年11月13 日から17日にウメオ大学(スウェーデ ン)で開催予定です。

(国際部国際連携課)



Material Science Sessionの参加者



Sustainability Sessionでモデレーターを務める加藤教授

寳金総長が「日中大学フェア&フォーラムオンライン」で基調講演

11月28日 (月) から29日 (火) の2 日間に渡り、日中大学フェア&フォー ラムがオンラインにて開催され、寳金 清博総長が基調講演を行いました。

2020年と2021年は、新型コロナウイ ルス感染症拡大による影響で、本フォ ーラムの開催が見送られましたが、今 年、科学技術振興機構 (JST) と中国 科学技術部国際人材交流協会の共催に より3年ぶりに開催され、1日目は、日 本側9大学、中国側12大学から約600名 の参加、2日目は、日本側6大学、中国 側7大学から約300名の参加がありまし

た。

1日目は、主催者等からの開会挨拶 の後、「ポストコロナにおける世界一 流の大学及び一流学科の構築につい て」をテーマに、本学を含む4大学 (日本側2大学、中国側2大学)からの 基調講演が行われました。寳金総長 の基調講演では、本学が現在取り組 んでいる研究教育活動、THE Impact Rankings、また、創基150年に向けた 本学の価値創造プロセス等について紹 介し、ポストコロナにおいても中国を はじめとした世界中のパートナーと連

携していきたい旨の発表がありまし た。基調講演に引き続き行われた日中 学長円卓会議では、「ポストコロナに おける日中大学の国際協力及び人材交 流について」「大学の人材及び教育・ 研究成果を如何に社会還元するかしの 2つのテーマで、日中両国の大学から の代表者による発表が行われ、2日目 には、「漢方分野」「低炭素分野」 「農業分野」の3つのテーマで、研究 交流会が行われました。

(国際部国際連携課)



寳金総長による基調講演

令和4年度北海道地方発明表彰を受賞

本学、共和コンクリート工業株式会 社、公益財団法人函館地域産業振興財 団及び株式会社東和電機製作所の共同 発明「最適波長による高効率海藻種苗 生産システム」(特許第5931684)が、 令和4年度北海道地方発明表彰を受賞 しました。

本発明は海藻の成長に最適な波長の 光を効率的に照射することで、海藻の 養殖や藻場造成に必要な海藻の種苗を 大量培養する技術です。本システムに よる種苗生産の高効率化(省スペー ス、省エネルギー、低コスト)によ り、製造工程におけるCO。排出の削 減、さらに育成した種苗により造成さ れた藻場による大気中のCO。固定化が 期待されることから、SDGsの実現に 貢献するものです。

- ■令和4年度北海道地方発明表彰 特許庁長官賞
- ・共和コンクリート工業株式会社 海藻技術研究所 主席研究員 川越 力氏 海洋水産部 白石 恭輔氏
- ・株式会社アルファ水工コンサルタンツ 顧問 北山 進一氏
- ・元 共和コンクリート工業株式会社 海洋水産部 副部長 坂下 功氏
- ·公益財団法人函館地域産業振興財団 事務局長 吉野 博之氏 研究開発部 研究主幹 菅原 智明氏
- ·株式会社東和電機製作所 技師長 玉森 学氏
- · 元 株式会社東和電機製作所 開発部 課長 山田 芳浩氏
- · 北海道大学名誉教授(現·公益財団 長 北海道立工業技術センター セ ことができます。 ンター長) 安井 肇
- · 北海道大学 大学院水産科学研究院 教授 水田 浩之

■実施功績賞

- ・共和コンクリート工業株式会社 代表取締役社長 本間 丈士氏
- ·公益財団法人函館地域産業振興財団 理事長 久保 俊幸氏
- 株式会社東和電機製作所 代表取締役 浜出 滋人氏
 - ·北海道大学 総長 寶金 清博 (当日代理:産学・地域協働推進機構 教授・副機構長 寺内伊久郎)

今回受賞した地方発明表彰とは、大 正10年に開始され、実施されている優 れた発明、考案又は意匠を生み出した 技術者・研究開発者を全国8地方に分 けて顕彰するものです。また、全国規 模で実施する全国発明表彰に繋がって 法人函館地域産業振興財団 副理事 おり、さらなる飛躍のチャンスを得る

> 当機構は今後も大学の研究成果の社 会実装を目指し、社会への貢献と発展 を目指します。

> > (産学・地域協働推進機構)



記念写真

令和4年度第7回 定例記者会見を開催

てわかりやすく発信することを目的と した「定例記者会見」を開催しまし

育研究活動や運営状況等を社会に向け 総長補佐の進行のもと、獣医学研究院 です。 の青島圭佑助教が発表し、北海道教育 庁記者クラブ加盟社等から4名の参加

11月17日 (木)、本学の特色ある教 た。今回初めて司会を務めた黒岩麻里 がありました。発表内容は以下の通り

(社会共創部広報課)

発表事項(発表者)

- ・血管肉腫を治療可能にするために基礎研究を加速させる~北大公式クラウドファンディング第一号 (獣医学研究院 助教 青島圭佑)
 - ※発表資料掲載URL

https://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/office/pr/press-conference/R4.html



定例記者会見の様子



発表を行う青島助教



記者からの質問に答える吉見 宏理事・副学長



黒岩総長補佐と青島助教

北海道ガス株式会社と寳金総長との懇談会を開催

11月29日 (火)、北海道ガス株式会 社(以下「北ガス」)の大槻 博代表 取締役会長、八木 渉常務執行役員 (総務人事部長) 及び本学卒業・修了 生の北ガス社員6名が本学を訪問し、 寳金清博総長、増田隆夫理事・副学長 及び長谷川康弘副理事(社会共創部長 事務取扱)と懇談しました。

この懇談会は、大槻代表取締役会長

と寳金総長との会話を契機として実現 共にありつつ、世界でも存在感を示す に至ったものです。

懇談会では、寳金総長と大槻代表取 締役会長から、それぞれの取り組みに 様々なことにチャレンジしたい」との ついて説明があった後、北海道を更に期待が寄せられました。 魅力ある地域とするために本学に期待 する役割などについて、活発な意見交 換が行われました。

また、北ガスからは「北大が地域と

ような幅広い大学であり続けていただ き、そこから輩出される人材と一緒に

(社会共創部広報課)



懇談会の様子



記念写真

「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 札幌南高校にて6名の研究者が講義を実施

10月21日(金)札幌南高校にて、6名の研究者が講義を実施しました。

時:2022年10月21日(金)14:15-16:05

場: 札幌南高等学校 参加生徒:1年生約190名

「究極的共有結合への挑戦」 理学研究院 准教授 石垣 侑祐

石垣准教授は、有機化学の概要や、 有機の世界で基準とされる単位、Å (オングストローム) について説明し ました。また、結合長の限界と言われ た1.8 Åを超える、世界最長の炭素-炭

素単結合を持つ物質を創り出した研究 成果について解説しました。研究によ って常識を打ち破り、未知の性質を発 見することの楽しさと有機化合物の可 能性を、生徒たちへ伝えました。



結合を伸ばし新しい特性を発見できたと話す 石垣准教授

「蛋白質とあなたの健康・その深い深い関わり」 先端生命科学研究院 教授 相沢 智康

相沢教授は、蛋白質は人間にとって 最も重要であると話しました。約2万 種あるといわれる蛋白質の設計図とな るヒトの遺伝子(ゲノム)について、 ゲノムマップ(文部科学省発行)を使

って解説した相沢教授。遺伝子組換え 技術を用い人工的に作り出した蛋白質 の、未知の機能や構造を調べること で、医療や人々の生活に応用できるよ うにしたいと語りました。



生徒たちに蛋白質とは何かを説明する相沢教授

「動くがんを狙い撃つ放射線治療技術」 工学研究院 准教授 宮本 直樹

宮本准教授は、一般的ながん治療や 放射線治療について触れ、新たな治療 法として研究を進めている、陽子線治 療について解説しました。現在は、陽 子線治療の課題となっている、動くが

んへの照射(スポットスキャニング) について研究を進めており、新しい技 術を使い研究・開発をすることの楽し さを、生徒たちへ伝えました。



講義後、生徒からの質問に答える宮本准教授

「脳を治す再生医療最前線」 医学研究院 助教 川堀 真人

川堀助教は、脳卒中の後遺症に苦し む患者を助けるため、脳の傷ついた部 分を治す再生医療の研究を続けていま す。講義では、「治らないと言われて きた脳の病気を治る病気にしたい」と

生徒たちに語り、大学で行っている治 験やその認可へ向けたステップを解説 しました。また、医療や医学研究に係 る様々な業種についても解説しまし た。



再生医療について解説する川堀助教

「夢のエネルギー人工光合成の実現に向けて」 電子科学研究所 特任教授 三澤 弘明

三澤教授は生徒たちに、限りある地 下資源とCO。による温暖化の影響につ いて説明し、人工光合成でつくられた エネルギーが新たなエネルギーとして 社会実装できるよう、研究を続けてい ると話しました。最近の研究では、エ

ネルギー変換効率を従来のものから増 大することに成功しています。「エネ ルギーがなければ生活の質が下がる。 地下資源のない日本では、いかに効率 よく再生エネルギーを作るかが重要な 研究課題だ」と語りました。



人工光合成の可能性について話す三澤特任教授

「森林生態系の健康診断!」 北方生物圏フィールド科学センター 教授 中村 誠宏

中村教授は、苫小牧研究林を巨大な 研究室と捉え、地球温暖化が森に与え る影響について、様々な研究を続けて います。講義では、調査の際に出会っ た野生動物の姿や、温暖化を再現した

様々な実験の様子をスライドで紹介し ました。多様性があり、恒常性を維持 できる森が温暖化による食害や災害に 左右されにくい森であると、生徒たち へ解説しました。



多種多様な森が災害や温暖化に強いと説明する

アカデミックファンタジスタとは?

北海道大学の研究者が知の最前線を 出張講義や現場体験を通して高校生な どに伝える事業、「アカデミックファ ンタジスタ (Academic Fantasista)」。 内閣府が推進する「国民との科学・技 術対話」の一環として、北海道新聞社 の協力のもと2012年から継続的に実施 しています。今年度はコロナ対策を十 分に行って、札幌近郊の高校等を対象 に22名の教員が講義を実施しています。

北大の研究を発信するウェブマガジ ン「リサーチタイムズ」や、Facebook でも講義レポート等を随時更新中で す。こちらもぜひご覧ください。

・リサーチタイムズ

https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/ academic-fantasista/

· Facebook

@Hokkaido.univ.taiwa

(社会共創部広報課)





ウェブ特集「気候変動に挑む」を日本語及び英語で公開

12月1日 (木)、本学で気候変動に 挑む研究者たちを動画と記事で紹介 するウェブ特集「気候変動に挑む Understanding the Impact of Climate Change」を公開しました。

この特集では、本学研究者の気候変 動に関わる取り組みを、「氷河」「海 洋」「大気」「森林」「社会」の5つ の切り口から動画と記事で紹介してい きます。南極やグリーンランドの氷

河・氷床の融解のメカニズムや影響、 台風などの自然撹乱に対する森林の応 答、気候変動に関わる社会の合意形成 など、その内容は多岐に渡る予定で す。全てのコンテンツは日本語及び英 語の2言語で発信していきます。

本特集が多くの方々にとって、気候 変動への理解を深める一助となること を期待しています。

ウェブ特集「気候変動に挑む」URL 日本語版

https://www.global.hokudai.ac.jp/ climate-change/ja/



英語版

https://www.global.hokudai.ac.jp/ climate-change/



(社会共創部広報課)









特集サイトイメージ

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発 揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限 を付さない、息の長い募金活動をすることとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報 基金累計額(10月31日現在)

35,341件 6,131,103,655円

10月のご寄附状況

法人等19社、個人289名の方々から93,651,635円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示について掲載さ せていただきます。(五十音別・敬称略)

寄附者ご芳名(法人等)

株式会社アドアニモ、ARINA株式会社、胃腸科・内科 吉田裕司クリニック、有限会社 栄光ネットワークス、医療法人社団 大山内科医院、 株式会社ジェイエスエンタープライズ、医療法人社団 北浜胃腸科・内科、株式会社木村工務店、株式会社クボタ、新太平洋建設株式会社、 株式会社東京設計事務所、医療法人久佑会 得地内科医院、ニッタン株式会社 北海道支社、萩原建設工業株式会社、

パシフィックコンサルタンツ株式会社 北海道支社、株式会社北海システムエンジニアリング、株式会社モード・アライブ

寄附者ご芳名(個 人)

合川 正幸	青井 良平	青木 俊介	青木 宏	青沼 美隆	青栁 明子	阿部 慎司	阿部 雅史
安藤 孝夫	池本 貴志	石井 哲夫	石井 仁	石垣 隆弘	石川三千雄	石栗 秀	石丸 昌宏
市川 静夫	市坂 有基	井出 肇	伊藤 昭英	伊藤 大貴	伊藤 雄三	稲辺 隆史	猪股 路子
井原博	入澤 秀次	岩渕 慶太	内山 喬一	梅本 由佳	衣斐 秀郎	縁記 和也	遠藤 公憲
大岡 智学	大澤 恵利	大塚 宣樹	大場 清昭	大畑 揮義	大畠 敏男	大原 正範	大村 丈史
大矢 能成	岡田 良司	小川 恭孝	沖崎 遼	奥野 信博	小田 尚	小田原一史	小原 大和
加我 稔	片平 忠志	片山 琢	加藤 伸康	加藤 裕貴	金川 眞行	金子豊三郎	上久保康弘
上島 壯	神山 康明	亀澤 一昭	川合 榮邦	河谷眞知子	河本 充司	菊池 信和	北上 英彦
衣川 暢子	木村 郁夫	木村 清延	木村 祐介	金家 茂幸	久保 周吾	熊谷連多朗	倉持 允昭
栗原 俊秀	上月 浩	小坂 裕二	後藤 恒生	後藤 泰	小林 賢人	小林 勇樹	小松 和志
齊藤 晋	齋藤 久	齋藤文志郎	斎藤瑠衣子	坂井恵美子	坂本 大介	佐々木勇太	佐々木亮子
笹 貴彦	佐藤 紘一	佐藤美惠子	佐藤 峰嘉	佐藤 裕二	眞田 陽	三升畑元基	塩満 正哉
志済 聡子	篠田 好彦	篠原 正英	芝田 正	柴田 祐次	嶋田 誠	白崎 伸隆	城田 昌良
新宮 康栄	菅原 新也	杉江 和男	杉本 聡	鈴木 貴之	鈴木 知義	須藤 和昌	瀬田石瑠枝子
瀬名波栄潤	平 和俊	高瀬登志彦	髙田 泰弘	髙野 晃吉	高柳 涼	竹内 信彦	竹内 守
竹縄 維章	竹本 泰朗	伊達 広行	田中 和裕	田名部直勝	種井 善一	玉木 長良	田村 雅彦
丹治 愛	辻井 正久	土家 琢磨	土屋 努	寺澤 秀和	寺澤 睦	冨樫 晃平	豊田 威信
直井小百合	中島 一紀	中田 忠	中塚 英俊	中村 徳晴	中村 英夫	南須原康行	成田 安孝
新美 大伸	西方 聡	西田 実弘	西田 雄二	西村真由美	沼田 哲男	野口 伸	萩原 寛司
橋本 貴義	橋本 徹二	橋本千惠子	橋本 博行	長谷川尚明	花田 秀一	原田 敏之	原 道子
番場 堅	樋口 一也	福井 滋	福岡 賢一	福嶋 香子	福島久美子	福士 幸治	福田 信也

福田 文治	福永 悟郎	福原 啓之	藤澤 裕子	藤田 洽介	藤田 正隆	古谷健太郎	朴 宗姫
細木 功一	細谷 昭悟	堀 信一郎	本元 貴大	前田 博	松井 耕二	松崎 道幸	松田 俊己
松原 謙一	松元 和幸	松本 嶺	峯崎 賢亮	宮田 信幸	宮森 健司	村井 貴	村上 泰一
村瀬徳啓充	村瀬 亮太	村田 善則	村守 清	森修	矢嶋 剛	安江 正博	矢野 智之
山形 光柾	山城 明伸	山田 澤明	山田 清司	山田 敏彦	山田 大隆	山本 道彦	行松 泰弘
横山 考	吉岡 英敏	吉田 広志	吉見 宏	米森 敦也	米山由美子	四方 周輔	若狭 哲
和久井俊秀	渡辺明日香	渡辺 康了	渡邊 裕	渡部 克将			

銘板の掲示 20万円以上のご寄附で新規に銘板を掲示される方

(個人)

石栗 秀、大岡 智学、大畠 敏男、高瀬登志彦、伊達 広行、田村 雅彦、寺澤 秀和、橋本 徹二、橋本千惠子、 樋口 一也、村田 善則、行松 泰弘、和久井俊秀

〈感謝状の贈呈〉



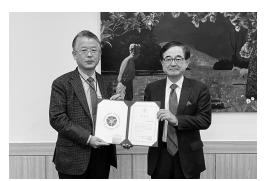
「第29回北海道大学衛生工学シンポジウム」(令和4年11月4日) (左から) 株式会社日水コン様、前澤工業株式会社様、株式会社東京設計事務所様、いであ株式会社様、メタウォーター株式会社様、クボタ環境エンジニアリング株式会社様、株式会社タクマ様、株式会社クボタ様



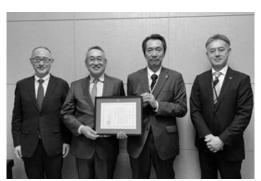
田中 利男 様(令和4年11月9日)



北海道放送株式会社 様(令和4年11月10日)



李 宇新 様 (令和4年11月11日)



明治飼糧株式会社 様(令和4年11月22日)



株式会社木村工務店 様(令和4年11月24日)



西村 成子 様 (令和4年11月29日)

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。 https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書 (兼・給与口座からの引落依頼書)」をダウンロードし、ご記入の上、 卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。 申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書(教職員現金用)」をダウンロードしてご記入いただくか、 卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④ クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当(事務局・学内電話 2017)

(社会共創部広報課)

令和4年度 第2回部局・分野横断技術交流会「SEMで身近な生物を見て みよう~牛物試料観察の理論と実践講座~その2(実践編) | を開催

9月14日 (水) から15日 (木) に、 理学部5号館において部局・分野横断 技術交流会「SEMで身近な生物を見て みよう~生物試料観察の理論と実践講 座~その2(実践編)」を開催しました。

本技術交流会は、技術職員が自ら企 画、運営、講義を行い、スキルの継 承・伝達・強化を図り、また異分野の 技術職員と交流することで、技術職員 の全学的な人材交流・技術情報交流・ 技術強化を目的とした北大コアファシ リティ構想研究支援人材育成プログラ ム、マルチスキル人材育成プロジェク ト事業として行われました。

1日目は、SEM (走査電子顕微鏡) 観察のための生物試料の前処理作業実 習(化学固定・イオン液体)を行い、 前半では、化学固定処理をテーマとし てコーディネーターがその目的と手順 について1工程ずつ説明したのち、実

際に身近な生物試料を用いて実習しま した。乾燥工程には目的に応じて複数 の手法があることや、それぞれ長所・ 短所があることも学びました。後半の イオン液体処理実習では、イオン液体 の種類や特性について説明があり、化 学固定処理に比べて簡便である一方 で、適切な条件出しが必要であること などを学びました。また、実際の試料 を用いてイオン液体を塗布・浸潤させ る実習を行いました。2日目は、前日 作成した試料のSEM観察を行い、試 料前処理方法の違いによる観察像の比 較やそれぞれの長所・短所について議 論しながら交流を深めました。

今回の受講者は6名で、SEM操作経 験者から初めてSEMを扱う人まで、 幅広い分野の方に参加いただきまし た。実際に作業することで、作業にか かる時間やコツ、注意すべきことなど

を実感できたとの声が多く聞かれまし た。また、本技術交流会は、令和2年 度に開催された「SEMで身近な生物 を見てみよう~生物試料観察の理論と 実践講座~その1(座学編)」で学んだ 内容を踏まえてコーディネーターが自 ら企画・開催したものですが、コーデ ィネーターからも、試行錯誤しながら 事前に準備したことは何事にも代えが たい貴重な経験になったという感想が 聞かれ、本事業の目的に寄与できたこ とが窺えました。

コーディネーター:

理学研究院 山本宏子、松本亜希子 歯学研究院 牛島夏未 農学研究院 安井雅範 触媒科学研究所 下田周平

(技術支援本部)



前処理作業実習の様子



コーディネーターによる講義の様子



SFM観察時の様子

情報環境推進本部が情報セキュリティセミナーを開催

情報環境推進本部は、10月25日 (火)、「2022年度北海道大学情報セ キュリティセミナー」を情報セキュリ ティ分野で数多くの講演をされている 日本電気株式会社サイバーセキュリテ ィ戦略統括部統括部長の淵上真一氏を 講師に迎え、オンライン形式にて開催 しました。

講演に先立ち、情報環境推進本部副 本部長及び最高情報セキュリティ責任 者(CISO)の行松泰弘理事から、現 在本学でも軽微なセキュリティインシ デントが日常的に発生しており、大学 の構成員一人一人が情報セキュリティ 対策に積極的に取り組むことが必要で ある旨の挨拶がありました。

講演は「いま考えるべきセキュリテ ィーと題して、現在のサイバーを取り

巻く脅威動向や2022年4月に施行され た改正個人情報保護法の注意点、クラ ウドサービスの利用方法や選定の注意 点、リスクアセスメントの考え方な ど、最近話題になっている点をわかり やすく解説いただき、参加者からは 「セキュリティに関する専門的知識が なくてもわかりやすかった」「とても 興味をひかれる内容だった」との声が 寄せられました。

また、質問も活発に行われ、PPAP の対応をはじめとした実務での悩みや ランサムウェアの身代金への対応な ど、普段聞けないようなお話もいただ き、参加者は興味を持って聴いていま

その後、南 弘征最高情報セキュリ ティ副責任者 (副CISO) 兼情報環境 推進本部情報セキュリティ対策室長か ら、北海道大学におけるセキュリティ 対策状況などについての説明を行い、 実例を交えた内容であったこともあ り、「サイバー攻撃が実は身近なもの である | との認識を持ってもらえた様 子でした。

昨今、サイバー攻撃は手口が巧妙化 しているため、最新動向を把握する必 要があります。情報環境推進本部で は、構成員の情報セキュリティに対す る意識向上を目指し、今後もセミナー の開催や研修会の実施等、情報セキュ リティの支援に取り組んでまいりま

(情報環境推進本部)



行松理事による開会挨拶



講師の淵上氏

本日のお話し

- ▶サイバーセキュリティの動向 ▶個人情報保護法について ≻クラウドサービスの選び方・使い方
- **▶リスクアセスメントについて**

セミナーの内容

読売新聞北海道支社との連携講座サイエンスレクチャー2022 「はやぶさ2が見た リュウグウ誕生のひみつ」を開催

11月19日(土)、本学と読売新聞東京 本社北海道支社との連携協定のもと実 施している「サイエンスレクチャー」 の第8回目、「はやぶさ2が見た リュウ グウ誕生のひみつ」を創成科学研究棟 にて開催し、札幌市近郊や旭川市の中 高生46名が参加しました。

はじめに、創成研究機構(理学研究 院) の圦本尚義教授が、小惑星探査機 「はやぶさ2」が持ち帰ったリュウグ ウ試料の分析から見えてきた最新の研 究成果について講演し、参加者から寄 せられた質問に答えました。続いて、

圦本教授が操作する偏光顕微鏡に、小 惑星のかけらである隕石のプレパラー トをセッティングし、参加者はスマホ アプリを通してその色彩豊かな顕微鏡 画像を手元でじっくり観察しました。

その後、理学研究院の川崎教行准教 授が、リュウグウ試料の分析に用いら れた同位体顕微鏡が設置されている部 屋へと案内し、実物を前に仕組みを解 説しました。冒頭の挨拶は、創成研究 機構の阿部 弘副機構長が務めまし

参加者アンケートには、「先駆者の

ノウハウやお話を生で体験させていた だき、心の底から感動しました」「普 通に調べてもなかなか見ることができ ない研究資料や同位体を調べることが できる唯一の顕微鏡を実際に見ること ができて興奮しました」といった声が ありました。当日の様子は翌日と12月 10日(土)の読売新聞(地方版)にも 取り上げられ、多くの方に当機構で行 われている最先端の研究について知っ ていただくことができました。

(創成研究機構)



創成研究機構の圦本教授



理学研究院の川崎准教授



同位体顕微鏡(写真左)見学の様子



アプリを使って隕石の断面を観察する参加者

アンビシャス特別助教向けセミナー 「クラウドファンディング説明会」を開催

創成研究機構研究人材育成推進室 (L-Station) では、アンビシャス特別 助教育成プログラムの一環として、10 月6日(木)に「クラウドファンディ ング説明会」(オンライン)を開催し ました。

アンビシャス特別助教(以下、特別 助教)とは、優秀な博士人材の早期育 成と多様なキャリアパス形成を目的に 令和4年度から開始した制度により採 用された特任助教です。

本説明会は、特別助教のアウトリー チ活動を支援するため株式会社アカデ ミストの阿部麻衣子氏を講師にお招き し開催したもので、特別助教7名を含 む本学の助教10名が参加しました。

説明会では、研究者が市民から研究 費の支援を受けることができるクラウ ドファンディング事業が紹介され、支 援を受けるためのポイントとして、研 究成果の有用性だけでなく研究者のフ ァンになってもらうことなどがあげら れました。参加者からは支援金の使用 用途に制限はあるか、支援者へのリタ

ーンにはどのような事例があるか、人 文社会学系の研究の事例はどのような ものがあるかといった質問が寄せられ るなど、非常に関心の高い説明会にな りました。

この他にも、研究人材育成推進室で は異分野の特別助教の交流を目的に、 研究紹介交流会などを実施しているほ か、大学院教育推進機構・先端人材育 成センター、ダイバーシティ・インク ルージョン推進本部とも連携したイベ ント情報や、e-ラーニングコンテンツ も提供しています。今後の活動の詳細 は研究人材育成推進室のウェブサイト などで紹介していく予定です。

アンビシャス特別助教制度ウェブサイト https://l-station.cris.hokudai.ac.jp/overview_asap/



◆アンビシャス特別助教制度とは?

本学の博士学位取得3年以内の者を対象 に特任助教(任期2年)として採用し、人 件費・研究経費の支援に加え様々な人材育 成プログラムを実施する若手研究者育成制 度です。特に本学の「博士人材フェローシ ップ事業 | の出口として修了者の応募が期 待されます。研究人材育成推進室が公募を 担当し、令和4年度は10名採用しました。 採用後の所属は創成研究機構と研究活動を 行う配置希望部局の両方となります。特別 助教には、研究エフォートの確保のために 授業担当免除など教育業務負担が軽減され る一方、大学院教育推進機構における大学 院プログラムや博士フェローシップ事業の 企画・運営への参画、創成研究機構が提供 する各種研究者育成プログラムへの参加が 求められ、教育力やマネジメント能力、キ ャリアパス選択のための能力など、専門分 野+αの力を身に付けることを目標として います。

(創成研究機構研究人材育成推進室(L-Station))



「クラウドファンディング説明会」の様子



定期的に開催している研究紹介交流会の様子

第25回ソウル大学校ー北海道大学ジョイントシンポジウムを開催



本学の戦略的国際連携先である韓国 ソウル大学校(SNU)との第25回ジョ イントシンポジウムを、11月10日(木)、 11日(金)の2日間、SNU冠岳キャン パスで開催しました。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴 う2年間のオンライン開催を経て、対 面を主としたハイブリッド形式で開催 されることとなった今回は、同シンポ ジウムの25周年を迎え、両校の長期か つ継続的な連携を振り返り、次の半世 紀に向けた連携可能性を見据える機会 となりました。

Towards a Sustainable Future: a Regional Focus (持続可能な未来に向 けて:地域に焦点を)」をテーマに開 催された本シンポジウムは、寳金清博 総長、横田 篤理事·副学長、法学研 究科、理学研究院、農学研究院、工学 研究院、情報科学研究院、北方生物圏 フィールド科学センター、高等教育推 進機構等の研究者や学生を本学から現 地に派遣し、Zoomで両校のオンライン 参加者を繋ぎながら、SNUのSe-Jung Oh学長、Theresa Seung Ah Cho国際 担当理事相当及びBernhard Egger国 際担当副理事相当、Haecheon Choi研 究担当副学長によって進められました。



リスト特任教授

全体会の特別講演では、SNUの Taeghwan Hyeonディスティングイッ シュト・プロフェッサー/韓国基礎科 学研究所ナノ粒子研究センター長が 「What Can Nano Do for You? (ナノ が何をできるか)」をテーマに、本学 ICReDDのベンジャミン・リスト特任 教授が「Universal Organocatalysts for a Better World (より良い世界のため の普遍的な有機分子触媒)」をテーマ に、学生含む若手研究者へのエールを 送り、また、産学・地域共同推進機構 の吉野正則特任教授は「Introduction to HU's Regional Collaborative Research Initiative on Felicity Decline (少子化 における北大地域連携研究イニシアチ ブ紹介)」として、今後の新規連携可 能性の提案を行いました。リスト特任 教授の録画講演に関しては、ICReDD の辻 信弥特任助教が会場での質疑応 答に対応しました。

シンポジウムに先立ち、本学総長一 行によるSNUの始興スマートキャンパ スの訪問、両校執行部の会談を持ち、 翌年の本学での第26回ジョイントシン ポジウム開催に係る調整が行われ、ま た、図書館に導入されたVRシアター 及び樹木園見学を行いました。



辻特任助教



執行部会談



Oh学長と寳金総長



Hyeon教授



吉野特任教授

シンポジウムの翌週には、両校の技 術職員を相互派遣する職員交流が開催 され、本学からは北方生物圏フィール ド科学センター札幌研究林と低温科学 研究所から2名が、SNUからは学術林

行い、研究者・学生支援や外部連携イ 開催予定です。 ベント運営に係る意見を交換するな ど、友誼を深めました。

第26回のジョイントシンポジウム

所属2名が参加し、互いの職場訪問を は、2023年10月26日及び27日に本学で

(国際連携機構)

分科会1

Changing Climate and Environment in East Asia

東アジアの変わりゆく気候と環境/理学研究院 准教授 佐々木克徳

本分科会は「Changing Climate and Environment in East Asia」というテ ーマで、ソウル大学校地球環境科学部 において計8件の研究発表を行い、東 アジア域の地球環境問題について主に 気象学と海洋学の分野で熱心な議論を 交わしました。まず11月10日(木)に レセプションの前に本学とソウル大学 校の学生のみでの交流会(Student Networking) を開き親睦を深めまし た。

11月11日(金)午後に分科会のメイ ンの研究発表会を行いました。ソウル 大学校のHanna Na助教による歓迎の 挨拶で始まり、本学から大学院生4名 とソウル大学校からも大学院生4名が 各々の研究について口頭発表を行いま した。分科会の最後には本学の見延庄

士郎教授が、分科会における大学院生 の熱心な研究発表及び討議についての 賛辞と、来年度の北海道大学での分科 会の開催と再会を約束して閉会となり ました。今後とも特に若い世代の研究 活動の交流を通じ両校の友好的な関係 を維持するように努めていきます。

(理学研究院)



分科会の集合写真



Student Networkingの様子

Collaborative Forest Science Education & Research in the Post-Pandemic

パンデミック後の共同森林科学教育&研究/農学研究院 教授 澁谷正人/北方生物圏フィールド科学センター 准教授 小林真

ソウル大学校のCollege of Agriculture and Life Sciences (CALS) を会場と して、ソウル大農業生命科学大学山林 資源学部、本学森林科学科、そして北 方生物圏フィールド科学センター森林 圏ステーションのメンバーが参加する サテライトセッションを開催しました。

セッションへはソウル大から教員2 名と大学院生5名、本学からは教員2名 と大学院生6名が参加しました。発表 されたテーマは、森林の経済的な価 値、気候変動による森林への影響、害 虫駆除に有効なフェロモン、造林方法 自体やその木材の性質との関係、土砂 災害による森林への影響やその回復戦 略などに関する応用的なテーマに加

え、樹木の耐寒戦略や防御戦略、森の 中を流れる河川に生きる魚類の生活史 など基礎的な話題も含まれました。参 加学生のほとんどが、熱意のある大学 院生であったため、学生間での専門的 な意見交換が活発になされていたのが 印象的で、アカデミックに実りの多い セッションでありました。参加者の中 には、コロナ禍にあって国際学会での 発表機会がこれまでなかったため、今 回が初めての英語での発表であったと いう学生も数名おり、海外での研究体 験のスタートとなりました。

セッションの前には、College of Agriculture and Life Sciencesの建物の 中にある山林資源学部の研究室見学ツ

アー、そして翌日には、Taehwa山にあ る学術林へのエクスカーションを企画 していただき、CO。フラックス観測を行 っている研究サイトの見学をすること ができました。森林という共通のフィ ールドを相手に、両大学で実施されて いる研究テーマには共通したものも多 く、今後もこの交流をきっかけとしな がら、学生交流や共同研究などが発展 していくことが期待されます。最後に、 今回のシンポジウムをソウル大でホス トしていただいたChoi Chang-Yong先 生へ感謝を述べたいと思います。

(農学研究院)

(北方生物圏フィールド科学センター)



会場となったCollege of Agriculture and Life Sciencesの前にて記念撮影



本学大学院生による発表の様子



Taehwa山へのエクスカーションで登った フラックスタワー

分科会3

New Frontiers in Convergence Science and Technology

複合科学領域の新たなフロンティア/情報科学研究院 教授 平田拓

情報科学研究院・情報科学院はソウ ル大学校側のカウンターパートであ るGraduate School of Convergence Science and Technology (GSCST) と 分科会を開催しました。GSCSTは、 複合領域(バイオ工学、情報科学、分 子医学・薬学)を対象とする研究科で す。今回は、情報科学研究院・情報科 学院から吉岡真治教授、西川 淳准教 授、平田 拓教授の3名の教員と、5名 の大学院生(情報理工学コース2名、 メディアネットワークコース2名、生 体情報工学コース1名)が参加しまし た。新型コロナウイルスの世界的流行 のため、昨年はオンライン開催、一昨 年は休会としたため、対面での分科会 開催は2019年以来となりました。

分科会 (2022 International Workshop on New Frontiers in Convergence Science and Technology) は、11月11 日(金)午後にGSCSTの教室で開催 されました。分科会前半では本学の教 員3名、ソウル大の教員3名による研究 紹介を行い、後半では本学とソウル大 の大学院生10名によるポスター発表を 行いました。全体では本学の教員3名、

院生5名、ソウル大の教員6名、院生10 名、合計24名の参加となりました。両 大学の大学院生がポスターの前で積極 的に話をしている様子が見られまし た。分科会の後、研究交流や学生の派 遣について意見交換しました。なお、 今回の分科会開催には、情報科学研究 院・ビッグデータとIoTに関する協同 センター (CCB) のご協力を頂きまし た。次回は札幌で再会することを誓 い、ソウル大訪問を終えました。

(情報科学研究院)



分科会参加者による集合写真(会場のソウル大教室にて)



大学院生によるポスター発表の様子

Joint Symposium in the field of Mechanical and Aerospace Engineering

機械及び宇宙航空工学分野における合同シンポジウム/工学研究院 教授 大島伸行

本年は全体シンポジウム日程に合わ せて、機械・宇宙航空工学分野におけ る合同シンポジウムがソウル大学校ファ カルティクラブ会議室を会場に11月10 日(木)、11日(金)の2日間開催され ました。本学からは7名教員が現地へ 訪問参加、また、ソウル大側からは工 学部長 Yoo S. HONG教授、In-Seuck JEUNG名誉教授、ソウル大オーガナイ ザー Kwanjung YEE教授ほか8名に参 加いただき、4セッション計13件の講 演が行われました。併せて、オンライ ンでのポスターセッションには両校合 わせ11件の学生講演と、北大教育研究 プログラム "f3" の紹介がありました。 本年はコロナ禍を経ての数年ぶりの

対面形式シンポジウムということもあ

り、講演発表分野は、第一日(10日) セッション1「AI・ロボテックス・材 料」分野、セッション2「次世代モビ リティ」分野、また、第二日(11日) セッション3「次世代宇宙航空技術」 分野、セッション4「ナノ・バイオ技 術」分野と、機械及び宇宙航空工学の 幅広い内容についての両校の先端的研 究に関する交流が行われました。

シンポジウム期間中の昼食懇談で は、本分野における大学間交流につい ての意見交換がなされ、同シンポジウ ムの継続的な実施に同意を得るととも に、各回に特定の分野・テーマを定め てより専門的な議論を行いたいこと、 また、シンポジウム事業と関連して共 同研究や人材交流についても検討を進

めることなどが話し合われました。ま た、次年度(2023年度)は北海道大学 での開催を予定し、両校より分野テー マと実施担当者を提案する計画です。

本シンポジウムの開催にあたっては、 ソウル大オーガナイザー YEE教授(集 合写真右から4人目)及び博士学生KIM 氏らに多大なご尽力をいただいたこと に改めて感謝申し上げます。ソウル大 は広大なキャンパスを有し、ちょうど紅 葉の季節でもありましたので、シンポ ジウムの休憩時間にはキャンパス散策 が楽しめました。参加グループの幾人 かはキャンパスに隣接のSeoul Science Parkにも立ち寄ったようです。

(工学研究院)



参加者集合写真



工科大学棟



Zoom参加者

分科会5

The 11th SNU-HU Joint Symposium on Materials Science and Engineering

第11回材料科学に関する合同シンポジウム/工学研究院 教授 橋本直幸

今年度はソウル大学校・本学双方か ら計7名の教授・准教授にソウル大学 校・本学の大学院生及び学部生15名を 加えた計22名の参加者数となり、ソウ ル大4名、本学4名の研究者が最近の成 果について発表しました。

りましたが、研究環境が十分ではない 状況下でも着実に研究成果を出してい ました。加えて、今回は前回のリモー

講演・発表内容は、原子炉・核融合 炉用構造材料、新規水素貯蔵材料、ナ ノ粒子材料、新規鉄系複合材料、機械 学習による逆問題解析など最先端の研 究が紹介されました。コロナ禍での対 面開催のため参加者数が少なめではあ

分科会におけるハン教授の口頭発表

ト開催と比較して活発な討論が行われ た印象があり、対面開催の最大の特徴 が活きたものと考えます。次年度は本 学がホストとなって第12回のシンポジ ウムを対面で開催する予定ですが、並

行して北大サマーインスティテュート の開講と学生のインターンシッププロ グラムを進めたいと思います。

(工学研究院)



第11回材料工学に関する合同シンポジウムの参加者集合写真



分科会における橋本教授の口頭発表



BBQ店での参加者集合写真

分科会6

Improving Education with Edutech

エデュテックを活かした教育推進を目指して/高等教育推進機構 准教授 江本理恵/大学院教育推進機構CoSTEP 特任講師 朴炫貞

ソウル大学校の基礎教育院(Faculty of Liberal Education, Center for Teaching & learning、以下CTL) と本学高等教 育推進機構と大学院教育推進機構が参 加するサテライトセッションが、ソウ ル大の CTL会場とオンラインを組み合 わせたハイブリッドで開催されました。 ソウル大からは教員3名、本学からは ソウル大現地に行った1人を含めて6名 が参加し、3つの発表が行われました。

発表内容は、両大学で実践されてい るハイブリッド型講義を軸にして、 科学技術コミュニケーションにおける 実技教育から、オンライン教育の中で 参加者のモチベーション、アドビ社と のコラボ事例を通したデジタルリテラ シー、大規模講義にオンライン授業制

作の事例、ハイブリッド教育の中で学 生の期待や満足度に対する調査など、 様々な視点からの発表と意見交換が行 われました。コロナ禍の中で大きく変 化した教育環境と、その環境の中で新 たであり、効果的な学習現場を作り続 けた二つの大学の実践、またその実践 の中で見られる試みから様々な可能性 が見られるセッションでした。

今回の分科会は6年ぶりに開催され たものであり、以前深く交流されてい た年月や知恵を土台に、今後の交流に ついて話せるきっかけにもなりまし た。ソウル大の皆さんと、本学から参 加した皆さんに感謝申し上げます。

(高等教育推進機構、大学院教育推進機構)



ハイブリッドで進めているソウル大CTL会場の様子

令和4年度第1回北海道大学事務職員海外短期集中研修

令和4年度第1回北海道大学事務職員 海外短期集中研修が11月14日(月)か ら11月18日(金)に行われました。こ の研修は本学の協定校であるソウル大 学校(韓国)との第25回ジョイントシ ンポジウムの職員交流事業の一環でも あり、両大学の職員がそれぞれの相手 大学を訪問し実際の現場を見学しなが ら、各部署の業務紹介、業務上の優れ た取組や課題等を共有し、意見交換を 行う形で行われました。

今回ソウル大学校からは学術林技術 職員が2名、本学からは北方生物圏フ ィールド科学センター森林圏ステーシ ョンから1名、低温科学研究所から1名 の技術職員が参加し、具体的な研修内 容はそれぞれの大学の参加者自らが企 画し行われました。

11月14日(月)、15日(火)はソウ ル大学校からの2名が本学を訪れ、札 幌研究林、低温科学研究所、総合博物 館、苫小牧研究林などを見学しまし た、低温科学研究所ではマイナス50度 の低温室において南極で採取されたア イスコアの説明を受け、また苫小牧研 究林では高さ25メートルの林冠クレー ンで吊り上げられたゴンドラに乗る体 験をするなど、バラエティに富んだ内 容の研修となり積極的な意見交換が行 われました。

続く16日(水)にはソウル大学校か らの参加者と共に本学からの参加者が ソウル大学校へ移動し、17日(木)、 18日(金)に冠岳キャンパス工科大学 及びテファ学術林、冠岳樹木園を見学 しました。工科大学では機械工作用設 備とそれを用いた業務の詳細な説明を 聞き、また学術林、植物園では、研究 内容の説明の後、技術職員がどのよう

に業務を行っているか、また維持管理 はどのように行われているかなど説明 を受けました。それぞれの大学の参加 者からは国による業務の違いがある一 方、共通する内容も数多くありとても 有意義な情報交換ができたとの感想が 聞かれました。

今回の研修では、参加者は基本的に 英語を用いてコミュニケーションを図 り、それぞれが相手先の参加者の要望 を聞きスケジューリングを行い5日間

共に行動することによって語学力の向 上という成果も得ることができまし た。参加者からは、業務上の交流だけ ではなく国を超えた親密な交流を図る とても良い機会となったため、今後も この事業を続けて欲しいという声が聞 かれました。

(国際連携機構、国際部国際企画課)



低温科学研究所 極低温室



ソウル大冠岳キャンパス工科大学



苫小牧研究林 林冠クレーン



テファ学術林



韓国アンバサダー・パートナー会の会合に 寳金総長及び横田理事・副学長が参加

11月11日(金)、韓国ソウル特別市 において、韓国アンバサダー・パート ナー会(以下、ヨルリョンチョ会)の 会合が開催されました。北海道大学か ら寳金清博総長及び横田 篤理事・副 学長他5名、ヨルリョンチョ会から7名 が参加しました。ヨルリョンチョ会は 12月1日現在、3人の北海道大学アンバ サダーと51人の北海道大学パートナー で組織されております。

本会合では、忠北大学校名誉教授の 朴鍾燮 (バク・ゾンソプ) 会長から 「人間関係をうまく維持するためには 手紙ではなく、直接対面することが非 常に重要である。北海道大学の国際化 成功の鍵は、関係者間の迅速な情報交 いる。」とのご挨拶がありました。寳 得され、本学農学部と全南大学校農業 金総長からは、招待の御礼とともに、 2026年に迎える創基150周年に向けた 本学の取組について説明がありまし た。

続いて、本年7月に北海道大学アン バサダーを委嘱した全槿雨(ジョン・ クンウ) 江原大学校名誉教授及び安起 完 (アン・ギワン) 全南大学校教授に 2名の北海道大学アンバサダーが委嘱 対して、改めて委嘱状の交付を行いま した。全名誉教授は1987年の本学で農 学博士を取得後、ヨルリョンチョ会の 前会長を務めるなど、長年にわたり韓 国における同窓生ネットワーク強化に 大きく貢献されてきました。安教授

換と同窓生の積極的な実践にかかって は、1994年に本学で博士(農学)を取 生命科学大学との学術交流協定締結な どにご尽力されてきました。

> 会合では、韓国の大学の現状や学生 の留学に対する考え方などについて活 発な意見交換が行われたほか、北大留 学当時の思い出が語られなど、盛況の うちに閉会となりました。このたび、 されたことで、本学と韓国の大学との 各種交流の活性化が今後ますます期待 されます。

> > (社会共創部広報課)



参加者集合写真



全北海道大学アンバサダー(右)と寳金総長(左)



安北海道大学アンバサダー(右)と寳金総長(左)

寳金総長一行が豪メルボルン大学を訪問

本学の戦略的国際連携先である豪州 メルボルン大学(UoM)とは、3月のへ ルシーエイジングに関するオンライン コンファレンス、6月の同学学長一行の 本学来訪、両校共同出資による共同研 究ワークショップ開催経費支援事業の 実施を経て、全学的な連携強化を図っ てきました。今後、全学的な戦略的研 究連携パートナーとして関係性を更に 強化するにあたり、11月20日(日)か ら22日(火)にかけて、寳金清博総 長、横田 篤 理事·副学長、増田隆 夫 理事·副学長、喜田 宏 人獸共通 感染症国際共同研究所統括(ワクチン 研究開発拠点特任教授)、関屋俊輝 同 研究所助教、網塚 浩理学研究院長、 加藤博文 アイヌ・先住民研究センター 長(国際連携研究教育局(GI-CoRE) 先住民・文化多様性研究グローバルス テーション長)、山内太郎 環境健康科 学研究教育センター長、本村宏明 国際 部長、植村妙菜 国際連携機構URAの 10名がメルボルン大学を訪問しました。

20日、UoMのダンカン・マスケル学 長夫妻からの歓迎を受け、翌21日には 執行部と大学間交流協定書、学生交流 覚書更新の調印、また2023年以降も継 続する前述の「Hokkaido-Melbourne Joint Research Workshops Fund (北 海道大学・メルボルン大学共同研究ワ ークショップスファンド)」の合意書 締結が執り行われました。

その後開催された異分野融合研究連 携の可能性を探る会議では、UoMのマ ーク・ハーグリーヴス研究連携・イン フラ担当副理事、アーロン・コーン先 住民研究所長、ベン・ネビル経営・経 済学准教授から、エネルギーや気候変 動、エクイティ、先住民研究等、社会 還元可能なテーマにおいて「Hallmark Research Initiatives (ホールマーク研 究イニシアチブ)」としてUoM本部か ら3年間の事業経費支援を行い、その 後研究センターや研究所で発展させる 手法の紹介がありました。

本学からは寳金総長、加藤センター 長、喜田統括から概括や地域・産学官 連携を踏まえての取組、先住民研究、

人獣共通感染症研究におけるGI-CoRE というプラットフォームを使っての複 数部局融合事例が紹介されました。ま た、ジェイムズ・マクラスキー研究担 当理事や本年のワークショップスファン ド採択研究者と交流し、既存研究連携 先としてピーター・ドハティ感染免疫 研究所、Bio21研究所を訪問しました。

22日、AI、データサイエンス、ロボ ティクスといった工学・IT分野の知見 を社会還元するための産学官連携研究 特区である「Melbourne Connect (メル ボルン・コネクト)」のコリン・マクロ ード起業センター長、利害関係者を除 いた企業・政府・自治体と大学内外複 数分野の研究者が共働し、世界の「都 市」ができることを探る異分野融合研 究所である「Melbourne Centre for Cities (メルボルン都市センター)」の アリソン・ヤング副センター長、サス テナビリティ研究所から発展解消され た気候変動研究所である「Melbourne Climate Future (メルボルン・クライメ



マスケル学長夫妻と寳金総長一行



マクラスキー理事とゾベル副理事



両大学の理学研究院長

ート・フューチャー) | のジャッキー・ ピール所長、医学・歯学・保健科学研 究院のブルース・トンプソン保健科学 院長、同サンドラ・イーズ先住民健康担 当副研究院長、モイラ・オブライアン理 学研究院長、マギー・メイフィールド生 物科学院長、農学・食科学院国際担当 のスリンダー・シン・チョーハン教授、 ジョシュ・スレーター獣医学院長代行 及びアブダル・ジャバー教授、エイドリ アン・リトル国際担当副理事、豪先住 民の社会的公正に資する団体・アトラ ンティック・フェローの長を務めるエリ ザベス・マッキンリー教授等、関係関 心部局での打ち合わせを行いました。

本学執行部がUoMの全学規模の外 部連携組織を視察のうえ担当教員から 直接情報を入手し、また、部局長や教 員がUoMの関係部局と交流したこと により、今後の複数階層での連携の深 化が期待されています。

(国際連携機構)



マスケル学長と寳金総長



異分野融合研究に係る会議



メルボルン・コネクト

新潟県議会総務文教委員会が本学のSDGsの取り組みを行政視察

10月26日(水)、新潟県議会総務文 教委員会の委員10名が来学し、本学の SDGsの取り組みについて行政視察を 行いました。

視察では、出村 誠総長補佐(先端 生命科学研究院) と加藤 悟教授(サ ステイナビリティ推進機構)が、本学 のSDGs推進に係る説明を行いまし た。札幌農学校開校当初の歴史に触れ ながら、本学がSDGsという言葉がで きる以前から持続可能な社会の実現に

向けて取り組んできたこと、また取り 組みを推進していくために「サステイ ナビリティ推進機構」「SDGs事業推 進本部」を設置したことなどを説明し ました。

新潟県議会総務文教委員会の委員か らは、「サステイナビリティ推進機構 の組織体制とはどのようなものか」や 「サステイナビリティ推進員会議の開 催頻度、構成員、会議の内容などはど のようなものか」など多くの質問をい

ただきました。本学が「サステイナビ リティ推進員制度」に代表されるよう に、全学を挙げてSDGsの達成やサス テイナビリティに関する取り組みを行 っている点や、本学ならではのSDGs に関する教育・研究などについて、高 い関心を寄せていただき、活発な意見 交換を行いました。

(サステイナビリティ推進機構)



新潟県議会総務文教委員会の視察団の皆様

アジア・サステイナブルキャンパス・ネットワーク(ASCN) 2022年次大会を開催

サステイナビリティ推進機構は、11 月24日 (木)、学術交流会館にて「ア ジア・サステイナブルキャンパス・ネ ットワーク (ASCN) 2022年次大会」 をハイブリッド形式で開催しました。

本大会は、サステイナブルキャンパ ス推進協議会 (CAS-Net JAPAN) と 当機構との共同主催で、第3回目とな る今回は、「サステイナブルキャンパ ス推進の意義とは?多くの危機に直面 した不安定な時代の中で」をテーマと しました。

会場には、ASCNに加盟するアジア 4か国(中華人民共和国・大韓民国・ タイ王国・日本) からの教員及び学生 の計57名が参加し、オンライン上では 各国から50名ほど参加しての開催とな りました。

本大会では、最初にCAS-Net JAPAN 代表理事で三重大学の朴 恵淑 特命副 学長 (環境・SDGs担当) から、続い

て、寳金清博総長・サステイナビリテ ィ推進機構長からビデオによる挨拶が ありました。また、CAS-Net JAPAN 副代表理事の横田 篤理事・副学長・ サステイナビリティ推進機構SDGs事 業推進本部長による基調講演「SDGs and Sustainable Initiatives as the University's DNA」がありました。

続いて、各国のネットワーク代表者 からそれぞれのサステイナブルキャン パス構築に関する近況と戦略について 発表があり、質疑応答が行われました。

学生発表では、各国の学生グループ 計12チームからキャンパスにおけるカ ーボン排出量の算定に関する研究や大 学内の樹木の炭素吸収量推定に関わる 研究、学生団体が企業と協働した持続 可能な社会に向けた取組等の事例発表 が行われ、厳正な審査の結果、最優秀 賞に工学院生の「the Renovation Plan of Welfare Hall in Hokkaido University

Sapporo Campus (North Dining Hall) が選出され、優秀賞には、同济大学 (中国)、高麗大学(韓国)、マヒド ーン大学 (タイ) 及び千葉大学のチ ームが選ばれました。各受賞校への 賞状授与式後、CAS-Net JAPAN理事 で工学研究院の小篠隆生准教授から閉 会の挨拶がありました。

なお、11月23日(水)には、北大キ ャンパスビジットプロジェクト (HCVP) の学生によるキャンパスツアーを実施 し、国内外からの参加者に本学の歴 史、自然、建築物及び最近の出来事な ど英語でガイドし、晩秋の札幌キャン パスを満喫していただきました。

本大会は、各国持ち回りにて開催し ており、第4回となる次回は、来年度 に韓国の高麗大学において開催される 予定です。

(サステイナビリティ推進機構)



来学参加者による記念撮影



横田理事による基調講演



最優秀賞を受賞した工学院生への賞状授与式



HCVPの学生によるキャンパスツアー

博士人材と企業の情報交換会 第50回「赤い糸会」を対面で開催

先端人材育成センターのS-cubicでは、10月11日(火)に札幌グランドホテルにて、本年度第2回(通算第50回)「赤い糸会」を開催しました。

コロナ禍のため、一昨年度、すべての情報交換会をオンラインで実施しましたが、一部の企業や学生から対面実施の強い希望があり、さらに本学や企業においてワクチンの職域接種が進んだことを受け、昨年度から、万全の対策を取った上で年に一度対面で実施しています。本会は、企業には博士人材の高い専門性や総合力を理解いただき、博士人材には企業の研究開発活動や企業における博士人材の活躍状況等を知ってもらうことで、相互理解を深め、視野の複線化、活躍フィールドの拡大を図ることを目的としています。

今回で通算50回目の開催となる「赤い糸会」は、本学の博士人材は12部局26名、連携大学からは博士人材3名(新潟大学2名、兵庫県立大学1名)、企業からは19社37名、オブザーバ大学から2校4名が参加しました。

本会では、冒頭の先端人材育成セン

ター長の吉原拓也教授による開会挨拶・趣旨説明の後、企業から業界動向や博士人材の活躍状況等の紹介が行われ、その後、博士人材の自己紹介ポスター発表、企業ブースを訪問しての個別情報交換等が活発に行なわれました。プログラム終了後には、先端人材育成センター副センター長の出村 誠教授から閉会の挨拶がありました。情報交換交流会では、大学院教育推進機構長の山本文彦理事・副学長から開会の挨拶があり、学生のポスター発表に関する表彰を行いました。

開催後、企業からは、「あらゆる専門性を持った学生がおり、対面式での実施でマッチングの可能性を高めることができるので、企業にとっても非常に有意義な会です。」「対面の赤い糸会は踏み込んだ部分まで深い話をできるのが良いと感じた。」との声をいただくことができました。また参加したできました。また参加したはり楽しいです。分野は違いましたが、敢えて、異分野の交流会に参加して良かったです。」「対面開催の赤いて良かったです。」「対面開催の赤い

糸会は初めての参加であったが、オンラインと比較して円滑なコミュニケーションができるため、今後の赤い糸会も情勢が許す限りは対面開催していただけると学生側としてはありがたいと感じた」といった嬉しい声も聞かれました。

先端人材育成センターでは上記の活動のほか、Advanced COSA、J-window(個別キャリア相談)、キャリアパス多様化支援セミナー、キャリアマネジメントセミナー、企業での長期インターンシップや、コンソーシアムの連携大学である東北大学や名古屋大学等が運営するプログラムの活用などによって、博士人材の実践力を高めております。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、興味のある方は先端人材育成 センターのウェブサイトを是非ご覧く ださい。

https://fohred.synfoster.hokudai.ac.jp/

(大学院教育推進機構先端人材育成センター)



出村副センター長の閉会挨拶





博士人材のポスター発表



企業との個別情報交換

外国人博士人材と企業の情報交換会 CAREER LINK MEETUP 2022 (英語版赤い糸ONLINE) を開催

大学院教育推進機構先端人材育成セ ンターI-HoPは、11月22日(火)に外国 人博士人材 (DC·PD) と国内企業の英 語による情報交換会「CAREER LINK MEETUP 2022 -For international DCs and PDs-」を開催しました。

今回が4回目の開催となる本イベン トには、アクセンチュア株式会社をは じめ国内企業10社、DC・PDは「博士 人材育成コンソーシアム」連携大学か らの参加者を含む38名が参加しました (東北大学1名、新潟大学5名、横浜国 立大学5名、立命館大学2名、兵庫県立 大学3名、沖縄科学技術大学院大学5 名)。

当日は先端人材育成センター副セン

ター長の出村 誠教授の挨拶に始ま り、各企業のショートトークの後、ブ レイクアウトルームに分かれて、博士 人材による自己の研究内容やスキルの プレゼンテーション、企業によるブー スセッションと、全て英語による密度 の高い交流が行われました。

参加した学生からは「多様な企業と 交流し、採用プロセスについての見識 を深め、さまざまな役割について学ぶ ことができる素晴らしい機会でした。 」、企業からは「様々な大学のイベン トに参加してきましたが、北海道大学 のイベントが運営、学生を含めもっと もしっかりしていました。プレゼンの 質も高く中身の濃い時間となりまし

た。」とのコメントが寄せられました。 本学の博士後期課程は留学生が約3 分の1を占めており、外国人博士人材 のキャリア支援は喫緊の課題となって います。I-HoPでは、外国人DC・PD の日本でのキャリアパスを広げるため 様々な取り組みを行っています。中で も国内企業との英語による交流機会の 創出は企業や連携大学からの注目度も 高く、ひいては外国人留学生の日本国 内での就職率向上に寄与するものとし て、今後も継続開催が期待されていま

(大学院教育推進機構先端人材育成センター)



出村副センター長による開会挨拶

Short presentation by the participating companies

-Announcement order-

す。

- 1. Accenture Japan Ltd
- 2. AWL, Inc.
- 3. KYOCERA Corporation
- 4. MOLCURE Inc.
- 5. Rakuten Mobile, Inc.
- 6. ROHTO Pharmaceutical Co., Ltd.
- 7. Sanoh Industrial Co., Ltd.
- 8. Shiseido Company, Limited
- 9. Sony Corporation
- 10. SYSMEX CORPORATION

参加企業

古河講堂のパープル・ライトアップを実施

本学は、内閣府の実施している「女 性に対する暴力をなくす運動」に賛同 し、女性の人権尊重ならびにハラスメ ントや差別的言動に対する学内構成員 の意識向上を図るため、11月18日(金) に、その運動のシンボルカラーの紫色 で古河講堂をライトアップしました。

点灯式では、山口淳二理事・副学長 が挨拶の中で「『人権と多様性の尊 重』は、人間社会の基盤であるととも に、大学が真理の探究と知の創成の場 であるために不可欠。人権を著しく侵 害する『暴力』の問題は早急な対応が 必要である。」と話しました。山口理 事・副学長と共に、デートDV防止教 育活動も行っている文学院博士後期課 程の白井那奈氏の点灯合図により古河

講堂がパープルに彩られ、点灯式にご 参加いただいた皆様より拍手と歓声が あがりました。

その後、白井氏によるショートトー クでは「デートDVはDVと構造は同じ で、人権侵害であるが、誰もが被害者 にも加害者にもなりうる身近な問題で ある」と訴えました。また、「女性だ けではなくジェンダーやセクシュアリ ティを問わず起こる問題である。他人 事ではなく、自分事として考えていた だきたい」と締めくくりました。

会場は多くの学生や市民で賑わい、 関連する啓発パンフレット等も多数配 布されました。これを機に、皆様に暴 力やデートDVについての認識をより 深めていただくとともに、もし身の回

りに助けを必要としている人がいれ ば、声をかけたりパンフレットを渡し たりするアクションを起こしてもらえ たらと思っています。

「女性に対する暴力をなくす運動 | のリーフレットや「デートDV」に関 するパンフレットは、必要に応じて部 局等にも送付可能です。またダイバー シティ・インクルージョン推進本部の ウェブサイトの中に特設ページを作成 しておりますので、こちらもぜひご覧 ください。

https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/19054/

(ダイバーシティ・インクルージョン推進本部)



古河講堂パープル・ライトアップ



記念撮影



山口理事・副学長挨拶



白井さんショートトーク

■部局ニュース

文学研究院がメルボルン大学と共同研究ワークショップを開催

文学研究院は、11月7日(月)から11 日(金)、メルボルン大学との共同研究 ワークショップ「Hokkaido-Melbourne Joint Research Workshops Fund 2022 "Healthy Ageing and the Good Life" | をハイブリッド形式で開催しました。

本ワークショップは、文学研究院 のKerrin Artemis Jacobs特任准教授 (哲学倫理学研究室) とメルボルン 大学のWilfred Yang Wang博士が共 同で申請し、今年6月に採択された [Hokkaido-Melbourne Joint Research Workshops Fund (共同研究ワークシ ョップスファンド)」5件のうちの1つ として支援を受けました。

当日はメルボルン大学から共同申請 者であるWang博士とShashini Ruwanthi Gamage博士が来学し、ファカルティ

ハウス「エンレイソウ」及び遠友学舎 で行われたワークショップには多くの 学生や研究者が参加しました。

初日は、Jacobs特任准教授の開会挨 拶に続き、藤田 健文学研究院長とメ ルボルン大学Russell Goulbourne人文 学部長から開会にあたっての祝辞と同 じ課題に取り組む今後の共同研究や協 力と発展への期待についてスピーチを いただきました。

続いて藤田研究院長とWang博士が 両校のギフト交換を行い、メルボルン 大学からはマスコットと校舎がデザイ ンされたスノードーム、北海道大学か らはアイヌ模様のタペストリーが贈呈 されました。

ワークショップでは、Healthy Ageing and Institutional Designを主題に人間

知・脳・AI研究教育センターによる Healthy Ageing and AIの回や応用倫 理・応用哲学研究教育センターの宮嶋 俊一教授(宗教学インド哲学研究室) や清水香基助教(社会学研究室)によ る「Healthy Ageing, Spirituality, and Life Satisfaction」をテーマとした回、 [Gender sensitive view on Healthy Ageing」をテーマにSharon J. B. Hanley 特任講師(環境健康科学研究教育セン ター)が発表する回があり、最終日は Future Strategy Dayとして、遠友学

舎で今後の研究協力や共同研究につい

ての建設的なディカッションが行われ

(文学研究院・文学院・文学部)



両学部長を紹介するヤコプス特任准教授



ました。

ギフト交換(左:藤田研究院長、右:Wang博士)



メルボルン大学からはオンラインで参加



最終日のディスカッション

経済学院・経済学研究院・経済学部が外国人留学生懇親会を開催

経済学院・経済学研究院・経済学部 は、10月27日(木)に、留学生、日本 人学生、教職員が相互に理解と親睦を 深めることを目的として、令和4年度 外国人留学生懇親会を開催しました。

本懇親会は新型コロナウイルス感染 症拡大の影響により2年間中断してい

ましたが、開催形態を従来の対面形式 からオンラインによるグループワーク に改め、今年度開催が実現しました。 当日は、留学生やそのチューター・サ ポーター、そして国際交流に関心のあ る日本人学生と関係教職員など計15名 が参加し、久保田肇研究院長及び高井

哲彦国際交流委員会委員長による挨拶 の後、日本語と英語の2グループに分 かれて想像力溢れるディスカッショ ン・発表を行い、大変盛況のうちに閉 会しました。

(経済学院・経済学研究院・経済学部)



懇親会の様子

経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催

経済学部は、札幌国税局長の上良睦 彦氏による「税務行政の現状と課題」 と題する特別講演会を10月31日(月) に人文・社会科学総合教育研究棟で開 催しました。

講演では、「国税庁の組織」「適 正・公平な税務行政の推進」「国際的 な取引への対応」「税務行政の将来 像」「Web-TAX-TV」の5つの内容を お話いただきました。

国税関係の職員が国内では他に比較 して多い一方、主要各国との比較では 相対的に少ないこと、適正・公平な税 務行政については、ガレージに無造作 に置かれた1億円の束のカウントに長 時間かかったことなど、経験を交えつ つ、昭和24年の設置時にGHQのハロル ド・モス氏から贈られた「正直者には 尊敬の的・悪徳者には畏怖の的」とい うスローガンが今でも生きていること が強調されました。この他、確定申

告、申請、届出などを税務署に行かず にできるようになる将来の構想など、 多くの興味深い話が続きました。

講演会には、経済学部生を中心に 156人の参加があり、「広く税務行政 について知ることができた」「国税庁 の第一線で活躍している人の話を聞く ことが出来る貴重な機会であった」 「経済学部生としても1人の国民とし てもためになる講義だった」「国税局

の努力によって私たちは国の保障を受 け、安心して生活を送ることができる ことを実感した。」といった感想が寄 せられました。

経済学部では、学生が社会問題に関 心を抱き、将来を主体的に考えてもら う良い機会になることを期待し、今後 も講演会を企画していく予定です。

(経済学院・経済学研究院・経済学部)



札幌国税局長の上良氏

経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターが シンポジウムを開催

経済学研究院地域経済経営ネットワ ーク研究センターは、11月12日(土) に、シンポジウム「北海道で働き、暮 らすということ」を開催しました。

今回は、対面とオンライン配信を併 用した初めてのハイブリッド開催を行 い、道外や海外からも含めて、対面・ オンライン併せて100名を超える方々 に参加していただきました。

シンポジウムは、講演とパネルディ スカッションの2部構成で行われまし た。「北海道スピリッツ、あれやこれ や」と題する作家の桜木紫乃氏の講演 では、北海道で生まれ育ち、現在も北 海道に住み続けながら、全国さらには 海外に向けて執筆活動を行う日常生活 とそれを支える北海道人の気質につい て、様々なエピソードを交えながら語 られました。

劇作家・演出家・俳優の斎藤 歩氏 による「働く場所で暮らすのか、暮ら す場所で働くのか」では、北海道に生 まれ、家族や自身の仕事のために移住 を繰り返し、現在は札幌を拠点に道内 外で演劇活動を行っている経緯にもと づき、仕事で求められる場所に暮らす ことと、自らが選んだ場所で仕事をす ることについて論じられました。

フリーランスの保田優衣氏による 「北海道、東京、NYの生活から得た 学びとこれからの生き方」では、国内 外で働き学びながらキャリアを形成し てきた経験をもとに、自身の現在の仕 事と今後の展望について出張中のアメ

リカからZoomを通して語ってくださ いました。

パネルディスカッションでは、北海 道で仕事をすることの意義や難しさな ど、それぞれの経験にもとづき活発な 議論がなされました。会場及びオンラ インでの参加者からも質問が寄せら れ、登壇者と参加者の間でも有意義な 意見交換が行われました。シンポジウ ム終了後のアンケートでは、道内外に 暮らす多くの参加者から、北海道で働 き、暮らすことの魅力を再発見できた との感想をいただきました。

(経済学院・経済学研究院・経済学部)



桜木紫乃氏



アメリカからリモートで参加した保田優衣氏





パネルディスカッション会場の様子

生命科学院が「第8回生命科学国際シンポジウムーを開催

11月4日(金)、学術交流会館にて The 8th International Life-Science Symposium (第8回生命科学国際シン ポジウム)」を開催しました。2020年 度、2021年度はコロナ禍により開催中 止としたため、3年ぶりの開催です。

本シンポジウムではInternational Graduate Program (IGP) の協力のも と、生命科学院所属の博士後期課程学 生が主体となり企画・運営を行いまし た。例年同様、本年度も様々なバック グラウンドを持つ若手研究者が一堂に 集うことで、相乗的に自らの研究をト ップレベルへと発展させるとともに、 世界で通用するコミュニケーション・ プレゼンテーションスキルを会得して もらうことが目的です。51名の留学生 を含む137名が参加し、口頭発表、ポ スター発表を通して、活発なディスカ ッションが行われました。

招待講演では、理学院の鎌田瑠泉准 教授をお招きし、「新しい自然免疫の 記憶メカニズム | についてご講演いた だきました。また、ご自身の豊富な海 外経験を踏まえて、若手研究者が今 後、国際的な場で活躍するための助言 もありました。

シンポジウム終了後には、本年度10 月入学のIGP留学生の歓迎会と、優秀 口頭発表及びポスター発表賞の授賞式 を兼ねた懇親会を、学術交流会館にて 引き続き行いました。本年度は12名の 口頭発表者の中から、柴垣光希氏、 Syeda Rubaiya Nasrin氏、Lareno

Villones Jr. Lopez氏、31名のポスター 発表者の中から井上祐輝氏の4名に優 秀発表賞が贈られました。

本シンポジウムは、北大という世界 中から若手研究者が集まる環境におい て活発な討論を行うことにより、若手 研究者が将来的に科学者として国際的 に活躍するための一助となりました。

開催にあたりご指導・ご協力をいた だいた先生方、ご支援をいただいた事 務担当者の方々、そして準備・運営に ご協力いただいた留学生・学生の方々 に深く御礼申し上げます。

(生命科学院)



北海道大学理学院 鎌田瑠泉准教授による講演



ポスター発表の様子

工学系部局が自衛消防訓練等を実施

工学系部局では、9月30日(金)に 自衛消防訓練を実施しました。

訓練にあたっては、昨年度に引き続 き新型コロナウイルス感染拡大防止の ため、自衛消防隊及び警備員のみで訓 練を実施し、更に実働参加者を40人ほ どに絞り、マスク及び手袋を着用する などの対策が行われました。

訓練は、発生した地震により工学部 フロンティア応用科学研究棟において 火災が発生したとの想定で、自衛消防 隊長の佐々木博之工学系事務部長の指 示のもと自衛消防隊各班が、初期消 火、安全防護、負傷者救護、避難誘導 などの自衛消防活動を行い、その状況 を、トランシーバーを用いて隊長に報 告するという内容で進められました。 訓練において各班は、トランシーバー

や消火栓、担架などの防災・救護用具 を実践さながらに用い、普段使い慣れ ないこれらの用具の使い方や作動の具 合を確かめるとともに、災害時に基本 となる動きを確認しました。

なお、今回の訓練についても、避難 者となる実働参加者がいないなか行わ れたため、避難誘導のほか、各班の建 物内の移動については、避難者の人混 みとその流れを想像で補いながら実施 しなければならないなど、コロナ禍で の実践的な訓練の難しさが感じられま した。

また、訓練では建物各所におけるト ランシーバーの通信性能を確認するこ とができ、今後想定される実際の災害 に備えて問題点の洗い出しを行うこと ができました。

訓練終了後、防火・防災管理者の松 橋和哉工学系事務部経理課長から講評 があり、コロナ禍で模擬的な訓練が続 くなか、今回は実際の災害に備えた実 働的な訓練が行えて良かったが、自衛 消防活動における動きに加え、人命第 一に「逃がす・逃げる」を意識して、 普段から身近にある防災設備の確認も 行ってほしいとの感想が述べられまし

自衛消防訓練終了後は、訓練の様子 を撮影した動画による研修やアンケー トを実施し、その結果を今後の訓練に 活かしていく予定です。

(工学院・工学研究院・工学部、 情報科学院・情報科学研究院、 量子集積エレクトロニクス研究センター)



消火栓を用いた模擬消火の様子



救護班によるケガ人救出の様子



防護班による機械設備の閉止作業の様子



誘導班による状況確認の様子

工学系部局が救急救命講習会を開催

工学系部局では、10月25日(火)に 公益財団法人札幌市防災協会から救命 指導専門官を招き、救急救命講習会を 実施しました。

工学系部局のエリア内では、「どこ にいても5分以内にAEDによる処置が 可能となる」目安を満たすよう、13か 所にAED(自動体外式除細動器)を 設置しています。

本講習会は、学内外にかかわらず心 肺停止に陥った人がいた場合、AED の利用などにより救急救命措置を行う

ことができるよう、心肺蘇生術を自身 の技能として体得することを目的に毎 年実施しているものです。

新型コロナウイルス感染防止の観点 から、ここ2年は受講者を安全衛生管 理事務室職員に限定し、講習会の様子 を動画にして工学系部局内での教材と する形をとっていましたが、今年度は 教職員・学生15名が参加し、心肺蘇生 法やAEDの使い方を学びました。

昨今の情勢を踏まえ、講習内容も通 常時の心肺蘇生法等及びAEDの取り

扱い方に加えて、新型コロナウイルス の感染対策を講じた心肺蘇生法及び密 にならないAEDの取り扱い方を盛り 込んだものとなりました。

工学系部局では、来年度以降も救急 救命講習会を開催していく予定です。

(工学院・工学研究院・工学部、 情報科学院・情報科学研究院、 量子集積エレクトロニクス研究センター)



挨拶をする藤木一夫講師



ウイルス感染対策を講じた心肺蘇生法を紹介する様子



説明を受ける参加者

医学研究院医理工学グローバルセンターが第6回医理工学院 学生研究発表会/第6回企業研究交流会を開催

医学研究院医理工学グローバルセン ターは、11月16日 (水)、臨床講義棟 において「第6回医理工学院学生研究 発表会/第6回企業研究交流会 | を開 催しました。本発表会は、医理工学院 の学生が日々の研究成果を発表する場 であるとともに、本学院の教育活動や 研究成果等を多方面に知って頂くこと を目的として、例年秋頃に開催してい ます。

昨年度は、完全オンラインでの発表 となりましたが、今年の発表は学内関 係者が一堂に会し、コロナ前と同様 に、対面での発表を行いました。ま た、会場での発表をリアルタイムで同 時配信するハイブリッド型での開催と しました。当日、会場には発表者13 名、学生・教職員30名、オンラインで は企業8社12名、その他の事前に参加 登録をしてくださった22名の総勢77名

の方々にご参加いただき、本学院への 関心の高さが伺えました。

医理工学院の学生にはそれぞれ異な る分野の指導教員が2名ずつ配置さ れ、本学院の研究領域である医学・理 学・工学、保健学、生物学などの異分 野を融合した領域における研究発表を 適切に行えるよう配慮した教育・指導 が行われています。

今回発表した修士1年生は入学時か ら研究活動に制約がありながら、前向 きに研究に取り組み、本発表会では新 進気鋭の発表が揃いました。また、本 発表会は、修士2年生が主体となっ て、ポスター制作、抄録作成、当日の 受付、司会進行等の運営に携わってい ることも特徴の一つです。今回は修士 2年生7名が有志で運営に携わり、研究 以外の面においても研究者・技術者と して研鑽を深めました。この取り組み

が、学生のモチベーション向上に繋が り、今後に生かされることが期待され ます。

参加いただいた企業の方々からも、 各発表に対して大変高い評価を得ると ともに、本発表会によって医理工学院 における教育や研究について知見を深 めることができたとのコメントをいた だきました。本発表会に続いて行われ た研究交流会では、学生、教員、企業 代表者による活発な意見交換がなされ 盛会のうちに終了しました。

来年度以降も引き続き開催し、医理 工学院の教育活動の発展に寄与する機 会となるよう、さらなる充実を目指し ていきます。

(医理工学院・医学研究院)



会場の様子



橋本准教授による挨拶

保健科学研究院公開講座「ようこそ!ヘルスサイエンスの世界へ」を開催

保健科学研究院は毎年11月3日(木) の文化の日に、「ようこそ!ヘルスサ イエンスの世界へ」というテーマのも と公開講座を開催しています。本年も 3名の若手研究者が各々専門とする研 究をわかりやすく紹介しました。感染 症の影響により参加者は例年よりも少 数となりましたが、37名の方にご参加 いただき、盛会のうちに終えることが できました。

はじめに、福永久典准教授が「「両 刃の剣」放射線の生体影響」と題し て、X線の発見後に伴う人類への恩恵 と明らかとなった生体影響、放射線が

精子形成に及ぼす影響(放射線不妊) について、最新の研究成果や今後の課 題などを交えながら講演しました。 続いて、近藤祥子准教授が「不妊治療 あれこれとこれから」と題して、不妊 治療の概要、妊娠に至るまでのステッ プを見ていきながら、不妊治療がどの ステップに対する治療になっているの か等について、生物学的な視点から講 演しました。

最後に、田村彰吾准教授が「骨髄を 理解し、骨髄を創る!」と題して、自 身が骨髄を創りたいと思った経緯、骨 髄を創るにあたり人工臓器がどういっ

たものか、人工臓器開発の現状やみえ てきた課題について、自身の研究チー ムによる調査内容などを紹介しながら 講演しました。終了後のアンケートで は、勉強になった、分かりやすかっ た、もっと聞きたかった等々の感想を いただき、参加者の皆様から大変好評 を博することができました。

今後も、時代を反映するようなテー マや、興味を持って参加いただけるよ うなテーマを設けて、公開講座を開催 して参ります。

(保健科学研究院)



山内公開講座委員長によるご挨拶



近藤祥子准教授による講演の様子



田村彰吾准教授による講演の様子

保健科学研究院と環境健康科学研究教育センターが「HU-SNU-MU 共同講義 Environmental Chemicals and Human Health (環境化学物質と人びとの健康) | をバンコクにて開催

保健科学研究院と環境健康科学研究 教育センターは、10月27日(木)から 29日(土)に海外ラーニング・サテライ トプログラムとして、大学院共通授業 「HU-SNU-MU共同講義 Environmental Chemicals and Human Health (環境 化学物質と人びとの健康)」をタイの マヒドン大学で開催しました。ソウル 大学校 (SNU)、マヒドン大学 (MU) との共同講義は5回目となります。

保健科学研究院の池田敦子教授及び 環境健康科学研究教育センターの宮下 ちひろ特任教授が中心となって行いま した。

本共同講義はCOVID-19の影響によ り一昨年は中止、昨年度はオンライン 開催であったため、3年ぶりに対面で

の開催となりました。今回は初めて MUがホスト校となり、3大学に所属 する教員9名、及び大学院生39名がバ ンコクに集まりました。環境化学物質 の曝露評価や生体モニタリング等の基 礎知識に加えて、大気汚染、室内環 境、マイクロプラスチック、COVID-19とマスク使用、胎児期の化学物質曝 露と子どもの健康、化学物質管理な ど、新しいトピックスも加わり、幅広 い講義が提供されました。

加えて、3大学に所属する大学院生 の混合構成による8組が事前学習の成 果を発表しました。本学からは保健科 学院、医学院、生命科学院、国際感染 症学院、工学院、環境科学院に所属す る幅広い専門分野の大学院生及びOne

Healthフロンティア卓越大学院Allvコ ースモジュール4として帯広畜産大学 の大学院生も参加しました。留学生も 多く参加したことから、国際色豊かで 多様な視点を持つ質問や意見が出され ました。本プログラムによる3大学の ネットワーク形成は、履修生の将来の キャリア形成においても大変有益でし

履修生からの評価も高く、来年度も 参加したいという希望がありました。 今後も継続して講義を提供していく計 画です。

(保健科学研究院・環境健康科学研究教育センター)



グループ討論



3校混成チームによるグループ発表



と発表を終えて(Boys and Girls, Be Ambitious!)



タイの伝統文化を学ぶ全参加者

薬学研究院・薬学部が「実験動物慰霊祭」を挙行

薬学研究院・薬学部は、11月10日 (木) に本研究院並びに本学部の教育 と研究のために供された実験動物の慰 霊祭を臨床薬学講義室にて執り行いま した。今年度は、教員、学生など約 150名の関係者が参列しました。

式典では、動物実験委員会委員長の 小川美香子教授から実験に供された動 物に追悼の辞が述べられ、次いで参列 者全員による黙祷及び献花が行われま した。生命科学及び薬学の教育と研究 の発展のために多大な貢献をした実験

動物の霊への供養がしめやかに執り行 われました。

(薬学研究院・薬学部)



追悼の辞を述べる小川委員長



献花する参列者

令和4年度薬学部成績優秀賞授与式を挙行

薬学部は、11月24日(木)に薬学研 究院長室において、令和4年度北海道 大学薬学部成績優秀賞授与式を行いま した。

この賞は「GPA制度の導入に伴 い、学業が優秀な学生を顕彰し、学生 の向学心を喚起する」ことを目的とし て、平成17年度以降に入学した学部3 年次学生を対象として設けられたもの で、今回で16回目の授与式となります。

今年度は、学部専門科目の成績が特 に優秀な3名が受賞者に選ばれました。

授与式では、木原章雄学部長から表 彰状と副賞が受賞者一人ひとりに授与 されました。

今後この賞が本学部学生の向学心を より一層喚起するものとなることを期 待しています。

(薬学研究院・薬学部)



成績優秀者と木原学部長(右)



表彰状を授与される成績優秀者2



表彰状を授与される成績優秀者1



表彰状を授与される成績優秀者3

水産学部附属練習船うしお丸皿世の竣工披露式を挙行

水産学部では、附属練習船うしお丸 Ⅲ世が10月31日(月)に竣工し、11月 4日(金)に函館市国際水産・海洋総 合研究センターで竣工披露式を挙行し ました。

竣工披露式では、寳金清博総長の挨 拶に続き、池田貴城文部科学省高等教 育局長(代読: 奥井雅博文部科学省高 等教育局専門教育課課長補佐) から祝 辞をいただき、向井 徹うしお丸代船 建造小委員会委員長より建造経過報告 がありました。その後、うしお丸Ⅲ世 が着岸している岸壁へ移動し、関係者

8名によるテープカットが行われ、坂 岡桂一郎うしお丸船長の案内のもと、 船内縦覧を行いました。

新たに建造されたうしお丸Ⅲ世は、 全長45.62m、幅8.20m、総トン数は262 トンとうしお丸Ⅱ世から大幅に拡張さ れました。最大搭載人員は33名(うち 学生・教員17名)です。高い安全性や 耐候性の確保、船体動揺の軽減を図 り、女性乗船者に配慮した居住空間を 拡充、運行時の低燃費化による環境負 荷低減を図っています。また、高度な 海洋調査を行うための最新の調査機器

を装備し、計量魚群探知機や計量ソナ ーなど各種精密音響機器の観測性能を 阻害しないよう、防音・防振対策を強 化しました。

うしお丸Ⅲ世は、海洋生態系の持続 可能性を希求する水産科学と、その関 連分野を包括的に教育・研究する実践 的なプラットフォームとして、調査研 究及び人材育成等を今まで以上に進め て参ります。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)



竣工披露式を迎えたうしお丸Ⅲ世





祝辞を代読いただいた奥井専門教育課課長補佐



関係者によるテープカット

函館キャンパスに地域水産業共創センターを設置

10月1日(土)、函館キャンパスに「地 域水産業共創センター (RFC: Regional Fisheries Co-Creation Center)」を設 置しました。

当センターは、本学が全道域だけで なく、全国や海外での取り組みを視野 に入れて、産学官金連携による地域社 会の課題解決及び新しい価値の共創に 取り組み、水産・海洋を核とした知の 拠点、シンクタンクとして地域振興に 貢献することを目指しています。

設置に伴い、10月4日(火)に開所式 を行いました。開所式では、都木靖彰 センター長 (水産科学研究院長)、セン ター専任教員である福田 覚教授から

挨拶があった後、センター設置場所であ る函館キャンパス管理研究棟1階106室 に看板を掲げ、記念撮影を行いました。

当センターは、地域のハブ機能を担 い、何かやりたいことや困ったことが あったら「とりあえず地域水産業共創 センターに相談しよう」と思っていた



福田教授(左)と都木センター長(右)による看板設置

だける、ワンストップ窓口となること を目指します。函館キャンパスにお越 しの際には、ぜひ当センターにお立ち 寄りください。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)



センタースタッフによる集合写真

地域水産業共創センターがキックオフイベント及び第1回地域懇話会を開催

11月3日(木・祝)に、フォーポイン トバイシェラトン函館にて、地域水産 業共創センターキックオフイベント「大 学が地域のためにできること、地域が 大学に期待すること」を開催しました。

イベントの前半では講演会(学生起 業の経験談)と、寳金清博総長や内閣 府と学生起業家や水産学部の学生達が 登壇し、パネルディスカッションを行 いました。後半では、学生達向けの即 席ビジネスアイデアコンテスト、ワー クショップ、平行して異業種交流会、 名刺交換会及び地域企業によるポスタ ーセッションを行いました。最後にビ ジネスアイデアコンテストの発表、抽 選会を行った後、増田隆夫理事・副学 長による挨拶で閉会しました。

当日の参加者は110名(内半数程度 は市内の大学生)で、会場は賑わいを みせ、終了後に実施したアンケートで は、9割以上の方から満足したとの回 答をいただき、「今後同じようなイベ ントが開催されるのであればぜひ参加 したい」との声を寄せる方もいました。 また、11月4日(金)には、同会場 にて、地域水産業共創センターの開所 記念として第1回地域懇話会を開催し ました。

都木靖彰センター長の開会挨拶及び 地域水産業共創センター紹介の後、寳 金総長と函館市の工藤壽樹市長からそ れぞれご挨拶をいただきました。次 に、内閣府の中野理美参事官及び地域 水産業共創センターの福田 覚教授か ら話題提供をいただき、参加者間によ る名刺交換会が行われた後、行松泰弘 理事による閉会挨拶にて終了しました。

当日は、自治体・大学及び様々な企 業の方々約70名にご参加いただきまし



総勢11名によるパネルディスカッション (キックオフイベント)



都木センター長による 地域水産業共創センターの説明(地域懇話会)

た。閉会後も会場にて交流を続ける方々 もおり、盛況のうちに終了しました。

今回開催したイベントは、地域の学 生や企業の方々に地域水産業共創セン ターのことを知っていただく良い機会 となりました。地域水産業共創センタ ーでは、今後も地域に向けた活動を続 けて参ります。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)



異業種交流会時で賑わう会場 (キックオフイベント)



工藤函館市長による挨拶(地域懇話会)

人獣共通感染症国際共同研究所が「第10回人獣共通感染症 克服のためのコンソーシアム会議しをオンライン開催

人獣共通感染症国際共同研究所は、 10月17日(月)と18日(火)に、獣 医学研究院と国際連携研究教育局 (GI-CoRE) と共催で、「第10回人獣 共通感染症克服のためのコンソーシア ム会議」をオンラインで開催しました。

今回の会議の目的は、当研究所の国 際協働ユニットを構成するワクチン・ 創薬研究開発グループ、病原体探索研 究グループと病原体ゲノム研究グルー プの主な研究の進捗状況を共有し、メ ルボルン大学、アイルランド国立大学 ダブリン校、アブドラ国王科学技術大 学と北海道大学間の共同研究連携を強 化することです。

17日(月)は、本学の喜田 宏ユニ バーシティプロフェッサー(UP)に よる開会挨拶の後に、病原体探索研究 グループのアイルランド国立大学ダブ リン校のNicola Fletcher講師とGabriel Gonzalez研究員、当該ユニット長の 澤 洋文教授と病原体ゲノム研究グル ープの山岸潤也准教授が、研究の進捗

状況について発表しました。

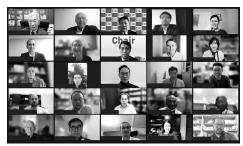
続いて18日(火)は、ワクチン・創 薬研究開発グループのメルボルン大学 のKatherine Kedzierska教授と病原体 ゲノム研究グループのアブドラ国王科 学技術大学のArnab Pain教授と2名の 外国人研究者、及びワクチン・創薬研 究開発グループの新開大史准教授と大 野円実助教が、これまでの研究成果と 今後の計画について発表しました。

2日間に渡る本会議で、基礎研究から 社会実装が期待される研究まで、人獣 共通感染症の克服に向けた様々な成果 が発表され、活発な質疑応答と議論が 交わされました。開会の挨拶で喜田UP が、COVID-19の終息が未だ認められ ない状況と変異株の出現について言及 した状況を反映して、Kedzierska教授 の「オーストラリア先住民のCOVID-19 ワクチンに対する免疫応答に関する研 究」や、Gonzalez研究員の「Nanopore を用いたSARS-CoV-2、Rotavirus group A等のウイルスのサーベイランス方

法の開発」、さらにインフルエンザと COVID-19の同時流行が懸念される 中、新開准教授の「influenza virusと SARS-CoV-2の混合不活化全粒子ワク チンの安全性と有効性 | などCOVID-19 制圧に向けた先端的研究の発表が注目 されました。

本会議には、人獣共通感染症国際共 同研究所及び獣医学研究院の教員と博 士研究員、海外連携大学のGI-CoRE連 携教員を含め、2日間に87名が参加し ました。本会議を通じて、2014年に4 大学で形成した「人獣共通感染症克服 のためのコンソーシアム」において、 さらなる連携強化を目指し、病原体の 伝播経路の解明、病原性発現機序の解 明、感染症の予防・診断・治療法の開 発を持続的に推進することの重要性を 再確認する有意義な機会となりました。

(人獸共通感染症国際共同研究所)



ノライン会議の参加者



会議運営会場



質疑応答の様子

附属図書館で「文献収集セミナー(文系の方向け) |講習会を開催

附属図書館は10月26日(水)、28日 (金)、31日(月)に、「文献収集セ ミナー (文系の方向け) | の講習会を 開催しました。この講習会は、これか ら本格的な論文執筆に着手する本学学 部学生3年生から大学院生修士1年生の 文系の学生を主な対象に、文献収集に 役立つ色々なデータベースの紹介や検 索のテクニックを習得することを目的 として、対面形式で実施しています。

各日とも、「基礎編」と「応用編」 の2つのコースを用意し、それぞれ、 日本語文献、海外文献の検索方法を図 書館職員が解説しました。受講生は講 師の説明を聞きながら操作し、検索方

法を学ぶことができました。

3日間合計で、基礎編30名、応用編 16名の参加があり、実施後の受講者ア ンケートでは「文献収集する方法をし っかり学べたので、生産的で効率的に 論文を書くことに役に立つと思う。」 「これまで使ったことのないデータベ ースの使い方について学ぶことができ て、非常に有意義だった。」などの意 見が寄せられました。また、満足度に おいても、「満足」と「どちらかとい えば満足」を合わせて100%となり、 受講者の満足度の高さが伺えました。

(附属図書館)



開催告知ポスター

附属図書館で「Mendeley(メンデレー)」オンライン講習会を開催

附属図書館では11月8日(火)にエ ルゼビア・ジャパン株式会社の井上淳 也氏を講師に招き、「Mendeley(メ ンデレー)」オンライン講習会をZoom により開催しました。

Mendeleyは、学術文献の管理とオ ンラインでの情報共有を目的とした無 料の文献管理ツールであり、多数の文 献の管理を必要とする学生や教員から も注目されています。

今回も北大独自のカスタマイズによ り、内容を拡大して実施しました。ま ずは例年同様、各自のパソコンに Mendeleyをセットアップすることか ら始まり、文献情報の取り込みと管理 といったMendeleyの基本的な使い方 を学習したほか、今回はさらに、 Mendeley上でのグループ機能の使い 方や、Word上での引用文献リストの 作成など、論文執筆に役立つMendeleyの応用的な機能についても、受講 者自身のパソコン操作を中心として講

習会を実施しました。

当日は事前申込者68名のうち48名が 参加と、実に70%の方々に受講いただ きました。オンライン型での講習会は 平均出席率が46%という報告もあるな か、この度の講習会は非常に盛況な結 果となりました。

開催後のアンケートでは、受講者全 体の97%が「非常に役に立った」「役 に立った」と回答しており、寄せられ たコメントには「Mendelevは前から 使ってみたかったものの、セットアッ プから使い方までを一人で調べるのは 面倒だったため、誰かに説明してもら えるのは助かりました。」との声もあ りました。

附属図書館では、今後も引き続きこ のような講習会を開催していきたいと 考えています。

(附属図書館)



開催告知ポスター

スラブ・ユーラシア研究センターが境界地域研究ネットワークJAPAN・ 竹富セミナー「危機のなかの境界地域」を共催~3年ぶりに対面開催~

11月19日(土)、スラブ・ユーラシア研究センターが事務局を務め、全国10の境界自治体が加盟する境界地域研究ネットワークJAPAN(JIBSN:代表前泊正人竹富町長)の年次セミナーが、3年ぶりに対面にて石垣島にある竹富町役場庁舎で開催されました。

本セミナーは、スラブ・ユーラシア研究センターが今年度から立ち上げた生存戦略研究の一貫としても実施されました。ここ2年は、オンラインによる首長会議、リレー形式による日本本土の「東西南北」の端っこからの実況中継などのイベントはありましたが、やはり対面(ハイブリッド)開催こそが議論を深め、広げる機会となることを感じさせる催しとなりました。

ロシアのウクライナ侵攻、中国の台 湾や南シナ海への圧力強化など緊張が 高まる国際情勢のもと、現場で最もこ れに対峙せざるを得ない日本各地の境 界自治体の声は生々しいものでした。

第1セッションは、ゲスト参加の中山 義隆 石垣市長による尖閣諸島をめぐる 昨今の動きについてのレポートを皮切 りに、糸数健一 与那国町長による台湾 や安全保障に関するメッセージ、北海 道からは工藤 広 稚内市長や根室市の 北方領土対策部長らによる(ウクライ ナ侵攻後の)ロシア問題に関する報告 など、最前線にあたる地域の現場と現 場を結ぶ貴重な情報交換の場となりま した。これらを受け、比田勝尚喜 対馬 市長も日韓関係の現状と島をとりまく 現状などを報告しました。

第2セッションでは、コロナ禍での各地の取り組みが紹介され、小笠原村、竹富町、礼文町、標津町、五島市から、この危機のなかもたらされた困難に向き合い、具体的にどのような施策を実施し、達成された成果について報告がありました。

懇談会では、渋谷正昭 小笠原村長が

「南洋踊り」を披露し、竹富島に伝わる伝統芸能との類似性を解説し、境界を越えた交流の重要性をアピールしました。

現地フィールドワークとしては、11月19日(土)に「石垣のなかの台湾を探す」(フリジャーナリスト・松田良孝氏による同行解説)、20日(日)に「最南端・波照間島を見る」(未開港の波照間空港視察など)という2つのボーダーツーリズムを実施し、参加者の多くが境界地域の多様性を体感していました。次回は北海道の境界地域で実施予定です。

なお、ご関心をお持ちの方は下記から本セミナー動画をご覧ください。 https://www.youtube.com/watch?v=rXIaPUF4yD0

(スラブ・ユーラシア研究センター)



JIBSNセミナー2022の様子



石垣のなかの台湾を探す



最南端・波照間島を見る

北方生物圏フィールド科学センターで畜魂祭挙行

北方生物圏フィールド科学センター 耕地圏ステーション生物生産研究農場 では、10月31日 (月)、ポプラ並木近 傍のアグリフードセンター近くに位置 する畜魂碑前において、教育・研究に 供された家畜の供養のために畜魂祭を 執り行いました。秋晴れのなか、星野 洋一郎農場長をはじめとする本センタ 一の教職員、本センターを利用する農 学研究院・農学部の教員、畜産科学科 の学生など約50名の関係者に参列いた だきました。

農場では、飼料畑で栽培したトウモ

ロコシや牧草から飼料を生産して家 畜・家禽を飼養し、得られる牛乳や食 肉を加工して畜産製品を製造するとい う、自給飼料を主体とする循環型の持 続的な家畜生産を行っており、学内共 同利用施設として様々な教育・研究が 展開されています。これらの活動に対 して多大な貢献をした家畜・家禽に感 謝し、その御霊を供養するために、毎 年畜魂祭を行っています。

当日は、大嶋栄喜動物生産技術室長 による進行のもと、中小家畜生産研究 施設、酪農生産研究施設及び畜産製造 施設(アグリフードセンター)より、 家畜・家禽の飼養頭数や利用実績等の 報告があり、その後、参列者全員で畜 魂碑に拝礼しました。最後に、星野農 場長から、日頃行われている教育・研 究活動は多くの家畜の生命の上に成り 立っており、そのことを常に忘れず諸 活動に邁進してほしいとの話があり、 参列者一同は、命の尊さを再認識し、 家畜動物を利用した教育・研究の推進 に向けた思いを新たにしました。

(北方生物圏フィールド科学センター)



畜魂碑

令和4年度レジリエント社会・地域共創シンポジウム「海溝型地震の被害想定と減災」(北海道大学広域複合災害研究センター・読売新聞 北海道支社・一般社団法人国立大学協会共催)を開催

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の発生が懸念されるなか、内閣府の有識者検討会は令和3年12月にその津波浸水想定を発表し、本年7月には北海道による被害想定が公表されました。広域複合災害研究センター(以下、CNHR)においても、読売新聞北海道支社、一般社団法人国立大学協会と共催で令和4年度レジリエント社会・地域共創シンポジウム「海溝型地震の被害想定と減災」を11月2日(水)に釧路市で開催しました。

本シンポジウムでは、地震発生メカニズムや津波浸水・被害想定の考え方、積雪寒冷地における避難行動や避難所運営に関する知見を発信し、連鎖複合災害や効果的な減災対策について議論しました。今回のシンポジウムはYouTubeによる同時配信も併用したハイブリッド形式で開催され、当日は、国や道、市町村の防災担当者、地域住民の方などが現地参加し、オンラインと合わせて233人が視聴しました。

本学の寳金清博総長からのビデオ開会挨拶の後、鈴木直道北海道知事からの式辞披露(吉川政英北海道危機対策局長代読)、衆議院議員鈴木貴子氏、北海道議会議員らからの祝電が紹介されました。続いて、山田孝CNHRセンター長から開催主旨説明、その後行われた基調講演では、蝦名大也釧路市長から「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に伴う最大クラスの津波への対応について」、岡田成幸北海道大学名誉教授(北海道防災会議地震専門委員会委員長)から「被害想定の概要と課題〜社会が議論すべきこと〜」と題しお話いただきました。

パネルディスカッションでは、登壇 者である本学の谷岡勇市郎教授、橋本 雄一教授、山口真司特任教授、日本赤 十字北海道看護大学の根本昌宏教授、 草苅敏夫釧路高等専門学校名誉教授、 北海道開発局の田村桂一調整官、北海 道危機対策課の大西章文課長、読売新 聞北海道支社の伊藤剛次長からそれぞ れの専門的立場から話題提供いただきました。その後、岡田氏をコーディネータとして各登壇者への個別事例Q&A形式で議論が深められ、ソフト対策を活かすためにはその前提としてのハード対策が重要であること、対策は次の世代への遺産であり長期的対策の視点も忘れてはならないこと、対策は他人事にせず産官学に報道・住民を加えたオールジャパンで取り組むべきと総括されました。最後に、読売新聞北海道支社の平尾武史支社長より閉会挨拶がありました。

CNHRが毎年開催する防災シンポジウムは今回で4回目を迎えました。今後も複雑化、多様化する自然災害に焦点を当て、行政や一般住民を対象としたシンポジウムを開催し、継続的にアウトリーチ活動を行っていきます。

(広域複合災害研究センター)



開会挨拶をする寳金清博総長



基調講演中の蝦名大也釧路市長

「脳科学研究教育センター研究発表会」の開催

脳科学研究教育センターでは、10月 22日(土)、医学部百年記念館において 発達脳科学専攻履修生による研究発表 会を行いました。今年度は北広島クラッ セホテルにおいて1泊2日の合宿研修を 行うべく準備を進めていましたが、新 型コロナウィルス感染症(COVID-19) の感染拡大防止のために宿泊を伴う合 宿研修は断念し、学内での研究発表会 を開催することとしました。

研究発表会には、文学、教育学、理 学、生命科学、医学、保健科学、北大 病院の各研究院・学院・学部に属する 基幹教員12名、大学院生16名(うち発 表者は11名)、その他9名、事務職員1 名の合計38名が参加しました。

発達脳科学専攻履修生による研究発 表は3つのセッションに分かれ、研究 が始まったばかりの修士課程1年生に 加え、昨年も参加した修士課程2年生 や博士課程の履修生の研究の進捗を知

ることができました。基幹教員の講演 では、それぞれ興味深い最先端の研究 が紹介されました。

久しぶりの対面開催で、寸暇を惜し むように休憩時間までも活発な質疑応 答が交わされました。学部生も含めて 発達脳科学専攻履修者以外の学生も聴 講できたため、履修生が様々な分野の 脳科学研究の理解を深めるだけでな く、脳科学研究教育センターの活動や 履修生の研究成果を学内に発信するこ とができました。

また、終了後の参加者全員による投 票で、生命科学院修士課程2年の白旗 洸太氏及び生命科学院修士課程1年の 田端 遼氏の2名が優秀発表賞に選ば れました。発表会終了後の意見交換で は、「時間が足りない。もっと議論を したい」「学生よりも教員の方が自熱 しがちなので、学生も教員に負けずに 積極的に参加してほしい」といった意

見も出されました。終了後のアンケー トでは「非常に有意義だった」「有意 義だった」の意見のみで、大変講評を 博しました。

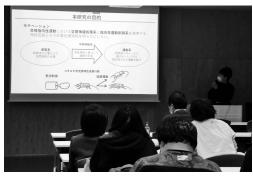
今年度も合宿研修は叶いませんでし たが、合宿研修は、ともすると所属研 究室の研究テーマや実験手法のみに偏 りがちな大学院教育を分野の垣根を越 えて融合させることができ、これは本 センターの最も重要な活動の一つと位 置付けています。終了後のアンケート でも「来年の研究発表会は合宿形式で 行いたい」という要望が多数寄せられ

一日も早くCOVID-19の感染が収束 し、再び合宿研修を行い、懇親会も含 めて部局を越えた学生と教員が交流で きるようになることを祈ります。

(脳科学研究教育センター)



発表の様子1



発表の様子2



優秀発表賞表彰の様子



集合写真

■表敬訪問

海外

年月日		来 訪 者	来訪目的
4.10.31	ビショップ大学(カナダ)	Stine Linden-Andersen 副学長	今後の交流に関する懇談



Stine Linden-Andersen ビショップ大学副学長(左から1人目)

(国際部国際連携課)

■人事

令和4年11月16日付発令

新 職 名(発令事項)	氏		名		旧職名(現職名)
【副病院長】 北海道大学病院副病院長 (期間:令和7年3月31日まで)	本	間	明:	宏	大学院医学研究院教授
【教授】 大学院理学研究院教授	高	橋	啓	介	大学院理学研究院准教授

令和4年12月1日付発令

新職名(発令事項)	氏	名	旧職名(現職名)
【教授】			
北方生物圏フィールド科学センター教授	後藤	貴 文	鹿児島大学教授

新任教授紹介

令和4年11月16日付



理学研究院教授に

髙橋 啓介 氏

化学部門無機·分析化学分野

北海道大学大学院工学院博士課程修了(平成26年3月) 博士(工学) (北海道大学)

専門分野

マテリアルズインフォマティクス、 触媒インフォマティクス



北方生物圏フィールド科学センター教授に

後藤 貴文 氏

耕地圏研究領域・ 生物生産保全分野

生年月日 昭和39年10月30日

最終学歴

九州大学大学院農学研究科畜産学専攻博士課程修了(平成9年3月) 博士(農学) (九州大学)

専門分野

家畜生体機構学、栄養生理学、家畜管理学、食肉科学

■訃報

名誉教授 土橋 由造 氏 (享年99歳)



名誉教授 土橋由造 先生が令和4 年10月9日にご逝去されました。

土橋先生は、大正12年3月15日北海 道に生まれ、昭和20年3月大阪理工科 大学予科終了後、4月三重海軍航空隊 入隊を命ぜられ、同年8月終戦により 海軍航空予備士官を退役されました。 昭和25年4月北海道大学工学部建築工 学科に入学、昭和28年3月卒業し、昭 和30年4月北海道大学工学部助手、昭 和36年4月北海道大学理学部講師、昭 和37年4月理学部助教授、昭和39年4月 工学部助教授、昭和44年4月工学部教 授に任じられました。昭和61年3月停 年退官され、同年4月北海道大学名誉 教授の称号が授与されました。平成12 年4月には勲三等旭日中綬章を受賞さ れました。

教育面では、北海道大学ご在職31年 の永きにわたり、教養部で図学を担当 されるとともに、工学部・工学研究科 では建築構造学の講義・演習を担当さ れ、技術者、研究者の育成にご尽力さ れました。また、学内にて学生部委員 会、教養部施設委員会、同予算委員 会、教養部設置準備専門委員会などの 委員・委員長を務められました。昭和 33年からの2年間は準硬式野球部監督 に就任され、東日本大会で準優勝を達 成されるなど、学問とスポーツの両面

で本学の教育・運営に多大の貢献をさ れました。

研究面では、鉄筋コンクリート床板 の力学挙動に関する研究に従事され、 昭和37年3月に「床板の応力に関する 研究 | と題する学位論文にて工学博士 の学位を取得され、昭和60年5月には 昭和59年度日本建築学会賞を受賞され ました。先生の研究成果は日本建築学 会の鉄筋コンクリート構造計算規準に 採用され、当時、世界的課題であった 床板の大たわみ障害を解決するなど、 建築技術の向上にもご尽力されまし

ここに、土橋先生の生前の多大なる ご功績に敬意を表し、謹んでご冥福を お祈りいたします。

(工学院・工学研究院・工学部)

■資料

令和4年度外国人留学生数

【部局別】

学部等 令和4年11月1日現在

		П	kt		国費留	7学生	外国政府》	派遣留学生	私費旨	7学生	合 計
	部	局	名		学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	合 計
文		学		部	2 (1)	3 (3)			2 (2)	44 (25)	51 (31)
教	育		学	部						18 (10)	18 (10)
法		学		部					1	2 (2)	3 (2)
経	済		学	部		2			2 (1)	24 (15)	28 (16)
理		学		部	6 (4)				26 (11)	3 (2)	35 (17)
薬		学		部					1 (1)		1 (1)
工		学		部	22 (2)				24 (5)	13 (3)	59 (10)
農		学		部						3 (3)	3 (3)
獣	医		学	部					1 (1)		1 (1)
水	産		学	部		1			4 (1)	15 (7)	20 (8)
総	合	教	育	部	14 (3)				36 (15)		50 (18)
現代	日本学	プロ	グラム調		3 (2)				45 (29)		48 (31)
合				計	47 (12)	6 (3)			142 (66)	122 (67)	317 (148)

大学院等

	7710177				I	同曲点	刀丝仏		,		三 中 (5) 24 日	-		北地方	ᄁᄽᄮ	
		_				国費領	省字生				 後間学生	-		私費官		
	部	局	名		修士課程	専 門 職 学位課程	博士課程	研究生等	 	専門 職学位課程	博士課程	研究开生	修士課程	専門職学位課程	博士課程 研究生等	合 計
					沙上水往	学位課程	19 上 1水生	初九工子	沙上床性	学位課程	1分上1水往	明九工寸	沙上床性	学位課程	母上体性 切九工寸	
文		学		院	3 (1)		9 (7)						78 (56)		46 (32) 7 (6)	143 (102)
文文法	学	研	究	院	0 (1)			3 (2)					10 (00)		7 (3)	10 (5)
2	一	研	究	科				3 (2)							9 (5)	
X	学学			件			- / ->	_					/>			9 (5)
法		研	究	科			2 (1)	1					31 (19)		10 (3) 17 (12)	61 (35)
情	報	科	学	院	4		5 (2)						30 (7)		39 (9) 1 (1)	79 (19)
情	報科	学	研 究	院											9 (2)	9 (2)
情	報科	学	研 究	科											6 (3)	6 (3)
水	産	<u>学</u>	学	院	1		5 (4)					2 (1)	16 (5)		18 (4) 2 (1)	44 (15)
水	産科	学	研究	院	1		0 (1)	2 (1)				2 (1)	10 (0)		10 (4) 2 (1)	3 (1)
環	境	科	学	院	13 (7)		20 (8)	2 (1)			1	1 (1)	62 (22)		68 (28) 9 (6)	174 (72)
		17			13 (7)		20 (8)				1	1 (1)	02 (22)			
地	球 環 境		学 研 究	院				1							20 (10)	21 (10)
理		学		院	3 (1)		7 (4)						24 (8)		23 (6) 3 (2)	60 (21)
理	学	研	究	院				1							8 (6)	9 (6)
農		学		院	17 (13)		21 (10)						30 (16)		26 (12)	94 (51)
農	学	研	究	院	(20)			1 (1)							8 (1)	9 (2)
生	命	科	学	院	7 (1)		25 (13)	1 (1)			1 (1)		35 (10)		55 (24) 2 (1)	125 (50)
先	端生命		学 研 究	院	(1)		20 (13)	1			1 (1)		55 (10)		2 2	
北		11		吃	1 / 1			1		-	-	-	05 (00)			3
教		,	学	院	1 (1)								35 (30)		16 (11) 3 (2)	55 (44)
教	育	5	研 究	院											1 (1)	1 (1)
玉	祭広報メラ	ディ	ア・観光学	院	1 (1)		2 (1)						83 (65)		29 (20) 2 (2)	117 (89)
メテ	ディア・コミ	ユニ	ケーション研究	記院				3 (2)							22 (20)	25 (22)
保	健	科学	学	院	2 (2)								10 (6)		13 (6)	25 (14)
保	健科	娄	研 究	院	2 (2)			1 (1)					10 (0)		18 (6)	19 (7)
T.	NC 11	学	F/1 /U	院	33 (13)		29 (5)	1 (1/				3	82 (17)		80 (24) 13 (4)	240 (63)
	237,	研	n's	险	33 (13)		29 (3)	1				3	02 (11)			240 (03)
<u>T</u>	学 合		究	院			0 (=)	1				0 (1)	00 (0)		24 (2)	25 (2)
総経	一	化	学	院	1		8 (5)				2	3 (1)			54 (17) 5 (2)	105 (33)
経	済		学	院	4 (2)		3						54 (29)		12 (4) 2 (1)	75 (36)
経	済 学		研 究	院				1							1	2
医		学		院	1 (1)		5 (3)				2 (2)		11 (9)		42 (20) 2 (1)	63 (36)
医	学	研	究	院	1 (1)		0 (0)				2 (2)		11 (0)		3 (3)	3 (3)
歯	,	学	/6	院			1 (1)								28 (17)	29 (18)
歯	学	研	究	院			1 (1)								20 (11)	2 (1)
		11/1		吃			11 (4)									
獣	医 医		学	院			11 (4)								12 (6)	23 (10)
獣	医 学	<u> </u>	研 究	院科											4 (1)	4 (1)
獣		ž	研 究	科											1 (1)	1 (1)
医	理	I	学	院			1						2		3	6
玉	際感	染	症 学	院			15 (8)								11 (4)	26 (12)
玉	際食	一沓	源学	院			3 (2)				1 (1)		8 (7)		9 (3)	21 (13)
公			学教育	部			3 (4)				1 (1)		0 (1)	16 (7)	1 (1)	17 (8)
1														10 (/)		
4		, ,,	_ ,, ,, ,,	部											3 (2)	3 (2)
人豊	狀 共 通 感 染														1	1
			クス研究センタ	7 —											2 (1)	2 (1)
ア	イヌ先住	民币	肝究センタ	_											3 (2)	3 (2)
低	温科	学	研 究	所											1 (1)	1 (1)
電	子科	学学	研究	所											2	2
遺	伝 子 病	制	御研究	所											3 (2)	3 (2)
			11 1/1 / 0													- \ =/
触	媒科	学	研究	所				1 / 1							4	4
スラ	フノ・ユー	フン	ア研究センタ					1 (1)							2 (1)	3 (2)
情			センタ	_											4 (4)	4 (4)
北方	了生物圏フィ	· - ル	ド科学センタ					1							5 (3)	6 (3)
高			推進機	構				1 (1)							52 (31)	53 (32)
合	7 374		·- ~ //	計	91 (43)	Λ	172 (78)	19 (9)	0	0	7 (4)	0 (3)	623 (314)	16 (7)	610 (259) 281 (145)	1.828 (862)
				μТ	J1 (10)	0	112 (10)	13 (3)	- 0		1 (4)	J (J)	020 (014)	10 (1)	010 (203) 201 (140)	1,020 (002)

日本語研修生等

	日本語・日本文化研修生	日本語研修生	A \$\dag{4}
高 等 教 育 推 進 機 構	国 費 私 費	国 費 私 費	一 司
	10 (10) 22 (26)	4 17 (10)	79 (46)

外国人留学生総数(「留学」以外の在留資格の者を含む)

学部	25 77 677 25 4- 米4	大	学 院 留	学 生	TIL o'ts 14- 555	日本語研修生	5万254.65米6	外国人学生	留学生及び外国人学生
	学部留学生数	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	日本語・日本文化研修生	留学生総数	(「留学」以外)	総 計
	189 (78)	714 (357)	16 (7)	789 (341)	437 (227)	72 (46)	2.217 (1.056)	61 (35)	2.278 (1.091)

^{* ()}内は女子を内数で示す

(学務部国際交流課)

^{*}修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む

^{*}研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む

令和4年度国別外国人留学生数

令和4年11月1日現在

		-te		国費	向 田	学生	d, n.L.			10 <u>1</u>	外国	政府》	走留	学生		pr		Adr	- 1	私	費 台		生	w.	ы	1	
国 名 (地 域 名)	学士	研究生	日本語· 日本文化 研修生	日本語 研修生	修士	大 専門職 学 位	学 院 博士	研究生	小 計	学部学士	修士	大 専門職 学 位	神 士	特 別 研究学生	小 計	学士		特別	日本語・ 日本文化	日本語 研修生	修士	大 専門職 学 位	博士		院 別	特別小言	1
ンド	7 I	驯光生	研修生3(1)	柳珍土	15(4)	学位	9(4)	侧光生.	28(9)	7 I	18 I	学位	15 工	研究学生		2(1)	例 光生	聽講学生	研修生	训莎工	8(4)	学位	17(8)	列光生 3(1)	研究学生	特 別 小 言 聴講学生 1 31(1	4)
ンドネシア	1(1)		1		12(9)		13(9)	1	28(19)							7(4)					7(4)		13(3)	1	1	29(1	1)
ンポジア ンガポール	2						2		4											1	2		4(1)	1		7(1)
フカホール リランカ			1(1)		2(1)		2(1)		5(3)												1(1)		3(2)	1		2(1) 6(4)
1	5(3)		2		2(2)		12(7)	1(1)	22(13)							8(4)	4/4	1	4/4)	3(2)	5(3)		12(10)		4(2)	2(1) 35(2	2)
尊 韓民国	20(2)	1	1(1)				4(3)	1	27(6)							5(3) 17(2)	3(2)	8(3) 17(9)	4(3)	1	14(9) 20(4)		14(7) 23(7)	1	- 5	7(6) 60(3 79(2	(3) (2) 1
華人民共和国	20 (2)		1		4(3)		31(12)	5(3)	41(18)				7(4)	9(3)	16(7)	41(18)	81(50)	10(3)	20(16)	2(2)	534(280)	14(6)	418(178)	129(64)	13(9)	12(6) 1,274(63	2) 1.3
パール キスタン		1			2(1)		4(2) 2(2)		5(2) 5(3)							1(1)					1		1			1 2(1)
ングラデシュ		1			6(2)		18(5)		24(7)							1(1)					1(1)		14(8)	1	1(1)	17(1	
ィリピン	3(1)	-1			4(2)		6(1)	1(1)	15(5)							5(2)					1(1)		8(2)	1	1(1)	16(6)
ータン ルネイ					1		9		9														1(1)			1(1)
トナム	1(1)				6(1)		7(4)		14(6)							5(2)					1(1)		4(2)	1(1)		11(6)
レーシア ャンマー	1(1)				2(1) 1(1)		2(2)		5(4) 5(4)							1(1)				1(1)	2(1)		7(3) 6(3)		1(1)	11(6) 5)
ノゴル	1				1		1(1)		3(1)							1(1)				1(1)	1(1)		7(4)	2(1)		1(1) 12(8)
†(18カ国1地域)	35(9)	3	9(3)		59(27)		119(56)	9(5)	234(100)				7(4)	9(3)	16(7)	94(40)	84(52)	36(15)	24(19)	8(5)	599 (310)	14(6)	553 (239)	140(67)	26(14)	25(15) 1,603(78	
フガニスタン ラン			1(1)				1(1)	1	1(1) 2(1)							1(1)										1(1)
フェート			1(1)						2(1)							-\ 1/							1			1	1)
ラジアラピア		1/1			1/1				2(2)														5			5	1
)7 V3		1(1)			1(1)		2(2)		2(2)														1			1	+
ルダン					1(1)				1(1)														•				
計(7カ国) ンゴラ		1(1)	1(1)		2(2)		3(3)	_1_	8(7)							1(1)							7			8(1)
ガンダ	L	L	L	_ 1				1	2	L	L	L	L			L	L						_1	L	L	1	Ħ
ジプト					1(1)		3(3)		4(4)						-						1(1)		2(1)	1		4()	2)
チオピアーナ							3		3												1		2	4		3 3	+
-ボヴェルデ							Ĭ		Ĭ																		1
ソピアニア							1(1)		1(1)	-						1					1			1		1 2	+
ノゴ民主共和国							1		1							-							1	2		3	╧
ソピア					1(1)		4(2)	2(1)	7(4)												1		7(2)	1		9(2)
ンパプエ -ダン					1				1														4	1		3	+
/ザニア							1,		1,														2(1)			2(1)
ニニジア 「ジェリア	1				2(1)		1(1)	9	9(1)								1				1		7(2)	1		1(1) 11(3)
レキナファソ	-				4(1)		1		7(1)								-							1		1	
トン 1日+					1				1												1		1(1)			1(1)
ソワナ ダガスカル																					1		1	2(2)		3(:	2)
ラウイ							1		1												1			1		2	_
リ アフリカ							1	1	1																		+
スーダン					2				2																		
ザンビーク ーリシャス					1(1)				1(1)														1(1)	1(1)		2()	
コッコ																1							1(1)			2(
(1)7	,				10(1)		05 (5)	e/ 1\	1							0					0/ 1		00/10	1/(0)		0(1) 50(1	(=)
汁(27カ国) -ストラリア	1			1	10(4)		25(7)	6(1)	43(12) 2(2)							1	1			1(1)	8(1)		29(10)	14(3)		2(1) 56(1 3(3) 5(
Jバス									2, 2,											-11.7				1(1)		1(1)
ュージーランド イジー					1(1)				1(1)							1							1			1(1) 2(1)
計(4カ国)					2(2)		1(1)		3(3)							2				1(1)			ĺ	1(1)		4(4) 9(6)
メリカ合衆国 トダ	3(1)		1	- 1	1(1)		2		7(2)							13(6) 2(1)			1 (1)	3(1)	1		4(1)	2(2)	1(1)	2(1) 27(1) 27(1) 9(
†(2カ国)	4(1)		1	1	2(1)		2		10(2)							15(7)			2(1)	3(1)	2		5(1)		1(1)		
レゼンチン					4(4)		1(1)		1(1)																		1
ナアドル レサルバドル					1(1)				1(1)																		+
アテマラ	1				2		2(1)		5(1)																		#
(タリカ 1ンピア		1(1)			-		1(1)		2(2)	-						1(1)		-								1(1)
ヤマイカ		1(1)					1		1																		╧
カラグア パエ							1		1		L																Ŧ
イチ i ジル	3(1)		1(1)		1(1)		1		6(3)							1(1)						1		1		1 4(1)
V-	1		*(4/	1	*(#/		i		3							-11/						-		_		- 1	
ンジュラス キシコ					1		1		9							1(1)				1						2(1)
1(13カ国)	5(1)	1(1)	1(1)	1	7(2)		10(3)		25(8)							3(3)				1		1		1		1 7(:	3)
ゼルバイジャン 町(イギリス)			1(1)		\vdash		<u> </u>					\vdash				6(3)		\vdash	4(4)		1		1(1)			3(1) 15(1)
クリア	1(1)		1(1)				L		1(1)	L	L	L				1(1)			1(1)		1	_			1(1)	5(2) 9(5)
7ライナ					47.0		2(1)		2(1)										., .,				1(1)	1	1, 2/	2(1)
ベキスタン ランダ				1	2(1)		2		5(1)														1			1(1) 1	
デフスタン			2(1)					1(1)	3(2)							1										1 2	4/
アケドニア レギス					1				1												3(1)					3(1)
ス							L		L	L	L	L										_	1(1)			3(3) 4(4)
フェーデン															•	1(1)				1/4	2					3(2) 6(3)
ペイン コベニア																1				1(1)			2(1)			1 5(2)
レビア					1(1)		1		2(1)							i										1	
E コ イツ			1						1		L					1(1) 5(3)		1	1(1)						3(1)	8(2) 18(1)
レクメニスタン																5(3)		1	1(1)		1				5(I)	0(2) 18(I)
レウェー									47.0														1			1 1	1)
ンガリー インランド							1(1)		1(1)							3(2)				1(1)	2(1)	1(1)	3(2)	1	1	1(1) 1(3(2) 15(
ランス																3(3)					1	1(1/	1(1)		1	3(2) 9(7)
-ランド	1				1/4)		1(1)	1/41	2(1) 2(2)											1(1)						1(
-7=7 /7		1(1)	3(3)		1(1) 4(2) 9(5) 91(43)		5(5) 12(8)	1(1)	14(12)							1(1)				1	2(1)		3(2)	3(2)		15(13) 25(1	9)
/ /		2) 2(7(5)	1	0(5)		12(8)	3(3)	35(23) 358(155)			i –				25(15)		1	6(6)	4(3)	14(3) 623(314)	1(1)	3(2) 15(9)	6(3)	5(2)	47(29) 124(7 83(51) 1.843(89	1) 1
ト(24カ国) (95カ国・1地域)	2(1) 47(12)	1(1) 6(3)	19(10)	4	3(3)	0	172(78)	0 0	00 (50)	0	0	0		9(3)	16(7)	142(66)	85 (52)	37(15)	32(26)			-1.47	10 \ 0/	166(77)	0(2)	11 (20) 121(1	

※ () 内は女子の数で内数

(学務部国際交流課)

北大時報掲載記事事項一覧(令和4年掲載分)

総 長 告 辞 等

1月号 ・年頭の挨拶

4月号 ·告示(学士学位授与式,入学式)

全学ニュース

1月号 · 総長年頭挨拶

- ・「2040年に向けた北海道大学の国際戦略」を策定
- ・樋渡雅人准教授がウズベキスタン大統領より「ウズベキスタン独立30周年記念」勲章を受章
- ・長縄宣博教授が日本学術振興会賞と日本学士院学術奨励賞を受賞
- ・第8回 定例記者会見を開催
- ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 札幌市立啓明中学校及び札幌国際情報高校へ向けて 2名の研究者が講義を実施
- ・北大フロンティア基金
- ・令和3年度北海道大学DX博士人材フェローシップに467名を採択、授与式・ガイダンスを開催
- ・新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会を実施
- ・令和3年度第2回新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催
- ・コロナ禍で困窮する学生への学生支援(第2回目)を実施
- ・令和3年度北海道留学生交流推進協議会総会をオンラインにて開催
- ・総長と高等学校等との懇談会をオンラインで開催
- ・2021年度 DEMOLA HOKKAIDO3rdBatchファイナルデモンストレーションを開催
- ・アフリカルサカオフィスでの現地活動再開
- ・「日本留学海外拠点連携推進事業(ロシア・CIS)」による業界研究セミナーを開催
- ・「第5回北海道大学フィンランドディ フィンランドの美しい冬景色を想って」を開催
- ・寳金総長が一帯一路大学連盟オンライン会議に出席
- ・大連理工大学 北海道大学 協定締結10周年記念式典・大学交流デーを開催
- ・令和3年度第1回サステイナビリティ推進員会議を開催
- ・博士人材と企業の情報交換会 第47回「赤い糸会」を対面で開催
- ・外国人博士人材と企業の情報交換会CAREER LINK MEETUP 2021 (英語版赤い糸ONLINE) を開催
- ・北海道大学・東北大学・名古屋大学合同シンポジウムを開催~連携型博士研究人材総合育成システムシンポジウム2021~
- ・中学生対象 体験型理科実験教室 『「感じて」動くロボットを作るには』 開催

2月号 ・大学入学共通テストの実施

- ・北海道大学一般選抜の志願状況
- ・フロンティア入試TypeI最終合格者の発表
- ・国際総合入試合格者の発表
- ・本学が「橋渡し研究支援機関」に認定
- ・北海道知事と道内国立大学学長との意見交換会を開催
- ・第9回 定例記者会見を開催
- 総長記者懇談会を開催
- ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 旭川東高校、北海高校へ向けて3名の研究者が講義 を実施
- ・北大フロンティア基金
- ・JA北海道厚生農業協同組合連合会から道内農畜産物が贈呈
- ・第24回北海道大学 ソウル大学校ジョイントシンポジウム
- ・RITARU COFFEE×北海道大学 オリジナル燻製珈琲「アノトキ」を開発〜学内試飲会を開催〜
- ・「北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」制定記念講演会を開催
- ・博士人材と企業の情報交換会 第48回「赤い糸会 (赤い糸ONLINE)」を開催
- 3月号 ・北海道大学一般選抜(前期日程・後期日程)及び私費外国人留学生(学部)入試の実施と合格者の発表
 - ・災害用無線機設置・通信訓練の実施
 - ・災害等危機対策本部設置訓練の実施
 - ・第10回 定例記者会見を開催
 - ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 先端生命科学研究院 芳賀 永教授が札幌北高校 にて講義を実施
 - ・研究者のためのスキルアップセミナー⑤ 資料作りに役立つ「伝わるデザインとレイアウト」を開催
 - ・北大フロンティア基金
 - 「総長表彰」表彰式を挙行
 - ・北海道大学DX博士人材フェローシップ生向け確定申告セミナーを開催

- ・北海道大学国際戦略2040キックオフシンポジウムをYouTube Liveで開催
- ・令和3年度大学の世界展開力強化事業(ロシア)事業総括報告会を開催
- ・第9回北海道大学オープンファシリティシンポジウムをオンラインで開催
- ・nano tech 2022に研究シーズを多数出展
- ・「北海道大学オリジナルティー製作プロジェクト」が新たな北大ブランド認定商品を開発
- ・国際連携研究教育局(GI-CoRE) 先住民・文化的多様性研究グローバルステーション(GSI)がキックオフシンポジウム
- ・北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークシンポジウムを開催

4月号 ・ 令和3年度学位記授与式の挙行

- ・令和4年度入学者入学式の挙行
- ・白土博樹教授が日本学士院賞を受賞
- ・宇山智彦教授がカザフスタン共和国ドストゥク (友好) 勲章を受章
- ・「アイヌ共生推進本部」を設置
- ・3拠点を共同プロジェクト拠点として認定
- 「永年勤続者表彰」表彰式を挙行
- ・名誉教授に60氏
- ・「職員表彰」表彰式を挙行
- ・令和4年度北海道大学の予算
- ・北海道大学DX博士人材フェローシップ令和3年度修了者へ、修了式としてメッセージを配信
- ・令和3年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式を開催
- ・令和3年度新渡戸カレッジ修了式(学部教育コース)を挙行
- ・新渡戸カレッジ修了式 (大学院教育コース) を挙行
- ・令和3年度北海道大学大塚賞受賞者の決定
- ・令和3年度北海道クラーク賞受賞者の決定
- ・令和3年度北海道大学鈴木章記念賞―自然科学実験―被表彰者の決定
- ・令和3年度「北海道大学企業研究セミナー」を開催
- ・サブサハラ・アフリカ地域向けに「大学院希望者向けオンライン日本留学フェア」を開催
- ・フィリピン宇宙庁(フィリピン共和国)との連携協定を締結
- ・第11回 定例記者会見を開催
- ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 札幌龍谷学園高校、小樽潮陵高校、札幌東高校、 札幌北高校へ向けて5名の研究者が講義を実施
- 北大フロンティア基金
- ・北大5附置研究所・化学反応創成研究拠点(WPI-ICReDD)合同シンポジウムを開催
- ・鈴木章賞授賞式及び化学反応創成研究拠点(WPI-ICReDD)第4回国際シンポジウムを開催
- ・国際連携研究教育局(GI-CoRE)バイオサーフィス創薬グローバルステーション(GSD)が「第2回GSD国際シンポジウ ム・第27回ファーマサイエンスフォーラム・創薬センター合同シンポジウム」を開催
- ・Hokkaido University The University of Melbourne Virtual Conference on Healthy Ageing (北海道大学 メルボルン 大学ヘルシーエイジングに関するバーチャルコンファレンス)を開催
- 5月号 ・北海道大学が「THEインパクトランキング2022」で総合ランキング世界10位(国内1位)、「SDG2 飢餓」の項目で世界1 位にランクイン
 - ・春の叙勲に本学から5氏
 - ・株式会社バッファローからのパソコン用充電器の寄贈に対し感謝状を贈呈
 - ・インターンシップで始める就活準備ガイダンスを開催~令和4年度キャリアセンター就職ガイダンスがスタート~
 - ・2021年度春季国際インターンシップ全学成果報告会を開催
 - ・寳金総長が北京科技大学創立70周年記念学長フォーラムにオンライン出席
 - ・鈴木貴子外務副大臣が来学
 - ・令和4年度第1回 定例記者会見を開催
 - ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 札幌創成高校へ向けて2名の研究者が講義を実施
 - ・北大フロンティア基金
 - ・北大コアファシリティ構想研究支援人材育成プログラム マルチスキル人材育成プロジェクト 令和3年度第2回部局・分野 横断技術交流会「光学顕微鏡の観察の新展開:光学分解能を超える観察とリモート観察」を開催
 - ・きたキッチンオーロラタウン店で「北海道大学フェア」を開催
 - ・北大×サントリー 鏡月Greenマーケティング施策考案プロジェクトを実施
 - ・株式会社HBAとの北海道フードロス削減プロジェクトを実施
 - ・第16回サステイナブルキャンパスマネジメント本部ステークホルダー座談会を開催

6月号 ・北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙行

- ・北海道大学ディスティングイッシュトリサーチャー称号授与式を挙行
- ・令和4年度新渡戸カレッジ入校式を開催
- ・全学インターンシップ履修説明会(国内)を開催~学部1・2年生向けのインターンシップも実施予定~

- · 令和4年度第2回 定例記者会見
- ・北大フロンティア基金
- ・北海道大学の安全衛生巡視体制が日本産業衛生学会の「第13回GP奨励賞」を受賞
- ・世界知的所有権機関 (WIPO) GREENのパートナー加入

7月号 ・名誉教授称号授与式を挙行

- ・総応募数186件! DX博士人材フェローシップ制度のロゴマークが決定
- ・第14回(令和4年度第1回)新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催
- ・令和4年度出入国在留管理制度説明会を実施
- ・東京大学・九州大学と学生合同グループワーク講座を開催
- ·「創成研究機構データ駆動型融合研究創発拠点(D-RED)」を設置
- ・日本航空株式会社との連携協定を締結
- ・令和4年度第3回 定例記者会見を開催
- ・北大フロンティア基金
- ・アルム株式会社が機械加工AIソフト無償貸与契約を締結
- ・創成研究機構が一般公開「キャンパスツアー2022」を開催
- ・第17回北海道インドネシア留学生協会科学会議を開催
- ・メルボルン大学学長一行が本学を訪問
- ・研修会「北海道大学のSDGs達成への取り組みと教育研究活動」を開催
- ・北海道大学サステイナビリティ推進機構とSTV札幌テレビ放送株式会社が連携協定を締結
- ・令和3年度第1回部局・分野横断技術交流会「Pvthonから始めてみようICT活用」を開催 ~北大コアファシリティ構想研究支援人材育成プログラムマルチスキル人材育成プロジェクト~

8月号 ・スラブ・ユーラシア研究センターのディビッド・ウルフ教授がフンボルト賞を本学初受賞

- ・令和4年度北海道大学公開講座(全学企画)『コロナ時代の新常識』を開催
- ・令和4年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙行
- ・令和4年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙行
- ・令和4年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行
- ・科学研究費助成事業実務担当者向け説明会を開催
- ・さくらサイエンスプログラム オンライン大学訪問を日本科学技術振興機構と共催
- ・内閣府が「北海道プライムバイオコミュニティ」関連施設を視察
- ・令和4年度第4回 定例記者会見を開催
- ・北大フロンティア基金
- ・2022年度 DEMOLA HOKKAIDO 1st Batchが無事終了
- ・DEMOLA GLOBAL社CEO Ville Kairamo氏が北海道大学を訪問
- ・スタートアップ・エコシステム形成支援 HSFCプラットフォームキックオフミーティングを開催
- ・令和4年度第1回サステイナビリティ推進員会議を開催

9月号 ・ 令和4年度オープンキャンパスを3年ぶりに対面形式で開催

- ・北海道大学栄誉賞を數土文夫氏に授与
- ・札幌キャンパスを駆け抜ける 北海道マラソン2022 -
- ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 今年度は22名の研究者が知の最前線を伝えます
- ・2022年度住友化学グローバルリーダー育成奨学金授与式を開催
- ・日本学術会議と公開シンポジウム「地球環境の未来を考える」を開催
- ・日本アフリカ大学交流会議・学長円卓会議2022に横田理事・副学長が出席
- ・北大フロンティア基金
- ・北大学生×Meijiグループ CSV活動についての意見交換を実施
- ・サステイナビリティ推進機構がHBC北海道放送株式会社との連携事業を実施
- · 「北海道大学×STV SDGsデー」を開催
- ・サステイナビリティ推進機構が江別市立江別第二中学校の生徒に研修プログラムを実施
- ・ダイバーシティ・インクルージョン推進本部が次世代リーダーシップ研究者円卓会議Ⅱを開催

10月号 ・リスト・ベンジャミン特任教授が来日

- ・「北海道大学ホームカミングデー2022」を開催
- ・令和4年度北海道大学インターンシップを実施
- ・令和4年度Integrated Science Program(ISP)入学式を挙行
- ・令和4年度北海道大学鈴木章記念賞―自然科学実験―被表彰者の決定
- ・令和4年度小島三司奨学金受給者の決定
- ・就職活動スタートアップセミナーを開催~令和4年度キャリアセンター就職ガイダンス後期開催分がスタート~
- ・IUCA 2022 Executive Committee Meetingに横田理事・副学長が出席
- ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 北方生物圏フィールド科学センター 中村誠宏 教授が札幌日大高校の生徒を対象に講義を実施

- ・令和4年度第5回 定例記者会見を開催
- ・北大フロンティア基金
- ・薬学研究院と化学反応創成研究拠点 (WPI-ICReDD) が合同シンポジウムを開催
- ・令和4年度「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を開催
- ・2022年度 DEMOLA HOKKAIDO 2nd Batchファイナルデモンストレーションを実施
- ・DEMOLA GLOBAL社CEO Ville Kairamo氏が北海道大学に来学
- ・産学・地域協働推進機構がSCSK北海道株式会社と小学生向けプログラミング教室を開催
- ・サステイナビリティ推進機構シンポジウム2022「世界の食料生産現場の現状と食料安全保障」を開催

11月号 ・ 秋の叙勲に本学から3氏

- ・令和4年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」 に採択~「ワクチン研究開発拠点」の開始~
- ・北海道大学職員採用試験内定者懇談会を開催
- ・外国人留学生用宿舎として北大インターナショナルハウス北14条が新たにオープン
- ・新入留学生オリエンテーションを実施
- ・総長と高等学校等との懇談会をオンラインで開催
- ・高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」を開催
- ・2022年度夏季国際インターンシップ全学成果報告会を開催
- ・九州大学とキャンパス計画マネジメント交流会議を開催
- ・サブサハラ・アフリカ地域向けに「オンライン日本留学フェア」を開催
- ・横田 篤理事・副学長が第4回日本ウズベキスタン学長会議に出席
- ・BioJapan 2022に「北海道プライムバイオコミュニティ」が初出展
- ・北大フェアin JALを開催
- ・令和4年度第6回 定例記者会見を開催
- ・総長記者懇談会を開催
- ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 札幌開成SSH・CoSMOSとの連携授業を実施
- ・北大フロンティア基金

12月号 ・ 令和4年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏

- ・大学入学共通テスト 本学一般選抜個別学力検査等 実施体制等の決定
- ・フロンティア入試合格者の発表
- ・国際総合入試合格者の発表
- ・帰国子女入試合格者の発表
- ・宮脇 敬氏と宮脇慶子氏に紺綬褒章が授与
- ・寳金総長がNoMaps2022北大えぞ財団入団記念セッションに登壇
- ・北海道大学、富良野市と日本オラクルがスマートシティ推進に関する産官学連携協定を締結
- ・総長との保護者懇談会をオンラインにて開催
- ・寳金総長が新渡戸カレッジで特別講演会を実施
- ・令和4年度北海道大学総長奨励金並びに北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行
- ・令和4年度北海道大学進学相談会をオンライン開催
- ・全学インターンシップ成果発表会及び経済同友会連携インターンシップ成果発表会を開催
- ・国家公務員北大OBOG懇談会を開催
- ・GPSを利用した構内循環バスの位置情報の確認(実証実験)及び区間延伸の運用を開始
- ・カザフスタン・キルギス共和国合同オンライン日本留学フェアを開催
- ・MIRAI2.0 Research & Innovation Week 2022に出席
- ・寳金総長が「日中大学フェア&フォーラムオンライン」で基調講演
- ・令和4年度北海道地方発明表彰を受賞
- ・令和4年度第7回 定例記者会見を開催
- ・北海道ガス株式会社と寳金総長との懇談会を開催
- ・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ札幌南高校にて6名の研究者が講義を実施
- ・ウェブ特集「気候変動に挑む」を日本語及び英語で公開
- ・北大フロンティア基金
- ・令和4年度 第2回部局・分野横断技術交流会「SEMで身近な生物を見てみよう~生物試料観察の理論と実践講座~その2 (実践編)」を開催
- ・情報環境推進本部が情報セキュリティセミナーを開催
- ・読売新聞北海道支社との連携講座サイエンスレクチャー2022「はやぶさ2が見た リュウグウ誕生のひみつ」を開催
- ・アンビシャス特別助教向けセミナー「クラウドファンディング説明会」を開催
- ・第25回ソウル大学校 北海道大学ジョイントシンポジウムを開催
- ・韓国アンバサダー・パートナー会の会合に寳金総長及び横田理事・副学長が参加
- ・寳金総長一行が豪メルボルン大学を訪問
- ・新潟県議会総務文教委員会が本学のSDGsの取り組みを行政視察

- ・アジア・サステイナブルキャンパス・ネットワーク (ASCN) 2022年次大会を開催
- ・博士人材と企業の情報交換会 第50回「赤い糸会」を対面で開催
- ・外国人博士人材と企業の情報交換会 CAREER LINK MEETUP 2022 (英語版赤い糸ONLINE) を開催
- ・古河講堂のパープル・ライトアップを実施

部局ニュース

- 1月号 ・ 令和3年度理学院優秀研究奨励賞授与式を挙行
 - ・総合博物館来館者200万人達成!
 - ・工学系部局で「こころの健康セミナー」を開催
 - ・令和3年度第1回農学研究院FD研修会を開催
 - ・国際広報メディア・観光学院の学院生がSDGsをテーマに取材・制作した動画が北海道放送で放映
 - ・低温科学研究所技術部で第27回技術報告会を開催
 - ・附属図書館(北図書館)において学部選択関連の図書展示を実施
 - ・附属図書館でMendeleyオンライン講習会を開催
 - ・和歌山研究林でアートプロジェクト「森のちからXII」を開催
 - ・スラブ・ユーラシア研究センター冬期国際ワークショップ「権威主義的統治の制度と戦略」開催
 - ・「脳科学研究教育センターオンライン研究発表会」の開催
- 2月号 ・地球環境科学研究院・環境科学院でFD研修会を開催
 - ・雨龍研究林で「森のたんけん隊」を開催
- · 先端生命科学研究院でFDSD研修会「総会2021」を開催 3月号
 - ・令和4年度薬学実務実習開始セレモニーを挙行
 - ・国際広報メディア・観光学院が教育・研究交流「TLLPスタディセッション」を開催
 - ・令和3年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター耕地圏・水圏ステーション技術職員専門研修を開催
- 4月号 ・経済学院がベスト・チューター賞授与式を開催
 - ・2022年度北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム修了式を開催
 - ・生命科学院 博士後期課程科目「少人数討論型育成プログラム」(北大帝人ブレーンストーミングワークショップ) を実施
 - ・総合博物館で第14回「卒論ポスター発表会」を開催
 - ・医学部が令和3年度最終講義・退職記念式典を挙行
 - ・医学研究院が「Clinical AI Human Resources Development Program 2nd アニュアルシンポジウム」を開催
 - ・医学研究院医理工学グローバルセンターが第4回分子医理工学サマースクール及び第8回医学物理サマースクールを開催
 - ・医学研究院医理工学グローバルセンターが国際シンポジウムを開催
 - ・令和3年度医学部保健学科卒業研究優秀賞表彰授与式を挙行
 - ・令和3年度保健科学院長賞及び保健科学院修士課程研究発表賞授与式を挙行
 - ・薬学研究院が「第15回薬学研究院研究発表会」を開催
 - ・国際広報メディア・観光学院が留学生(研究生)オンライン説明会を実施
 - ・メディア・ツーリズム研究センターでワークショップ「平和研究と観光研究の接続のありかを問い直す」を開催
 - ・スラブ・ユーラシア研究センター緊急セミナー「経済制裁とロシア:緊迫するウクライナ情勢」を開催
 - ・環境健康科学研究教育センターが令和3年度後期「社会と健康」修了生にディプロマ授与
 - ・脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第18期修了生に修了証書授与
 - ・附属図書館で「英語論文の書き方セミナー」オンライン講習会を開催
- 5月号 ・2022年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム第2期生採用式を開催
 - ・理学部生物科学科(高分子機能学)「ハイフレックス授業」FDを開催
 - ・先端生命科学研究院FD「特許出願を意識した審査会」を開催
 - ・水産学部附属練習船「うしお丸」代船 命名・進水式を挙行〜新船を「うしお丸」と命名〜
 - ・人獣共通感染症国際共同研究所が人獣共通感染症研究拠点研究シンポジウムをオンラインで開催
 - ・ポーランドの東方研究センターとの緊急共催セミナーを開催
 - War in Ukraine and beyond: Polish and Japanese Perspectives and Recommendations
 - ・観光学高等研究センターとひがし北海道自然美への道DMOが連携協定を締結
 - ・脳科学研究教育センター発達脳科学専攻の開講式を挙行
- 6月号 ・文学研究院FD「学生指導とハラスメント行動をめぐる本学の現況について」を開催
 - ・故Daniel Rudolf King先生を偲ぶ会を開催
 - ・水産科学研究院・水産科学院及び水産学部が北海道漁業協同組合連合会と連携協定を締結
 - ・スラブ・ユーラシア研究センター公開講座「溶解する帝国 ロシア帝国崩壊を境界地域から考える」を開催
 - ・地域研究に関わる戦略的発展のためのパートナーシップ協定を締結
 - ・北方生物圏フィールド科学センター名寄教育研究棟の新棟が完成
 - ・和歌山県農林大学校と和歌山研究林が包括連携協定を締結
- ・文学研究院講演会「女性限定公募の現場から-大阪大学文学研究科の経験と課題」を開催
 - ・会計専門職大学院主催による公認会計士・監査審査会会長の特別講演会を開催
 - ・経済学部成績優秀者表彰式を挙行

- ・「ORACLEデジタルトランスフォーメーション (DX) 入門セミナー」を開催
- ・情報科学研究院が国土交通省北海道開発局との連携協力に関する協定書調印式を実施
- ・函館キャンパスで『春のキャンパス一斉清掃』を実施
- ・北図書館に「スペイン関連図書 特設コーナー」を設置
- ・ 附属図書館が「文献収集セミナー (文系の方向け)」を開催
- ・北極域研究センターが北海道フィンランドウィーク「サイエンスDAY」をハイブリッドで開催

8月号 ・理学部でキャリアパス企画「キャリアカフェ」を開催

- ・令和4年度理学院優秀研究奨励賞授与式を挙行
- ・学生企画ワークショップ「ミュージアム・フォト・ウォーク」を開催
- ・2022年夏・学生企画の新たなミュージアムグッズの販売開始 「ゾウ&マンモス風呂敷」「発掘! ランダムシール 古 生物&土器」一
- ・歯学研究院デンタルイノベーションスペースに北海道曹達株式会社が入居
- ・メディア・コミュニケーション研究院が公開講座「ベルリン:都市は変貌する」を開催
- ・「ようこそ北大へ!-新生活を彩る、役に立つ!おすすめ本-」図書展示を開催
- ・附属図書館で「Mendeley (メンデレー)」オンライン講習会を開催
- ・スラブ・ユーラシア研究センター夏期国際シンポジウム「アナーキスト的転回?長い20世紀における帝国支配と抵抗」 開催
- ・情報基盤センター・サイバーセキュリティセンターが「Security College for Youth 2022 step 1」を開催
- ・第1回北の森林サイエンスCAFÉを開催
- ・プラス・ミュージアム・プログラム開始~公開シンポジウムの開催
 - ・公共政策大学院が「HOPS地方議員・公務員向けサマースクール2022~地域を豊かにするカーボンニュートラルの実現に おける市町村の役割~」を開催
 - ・北海道大学納骨堂慰霊式を挙行
 - ・薬学部が第23回生涯教育特別講座夏季講演会を開催
 - ・工学研究院新任教員向け産学連携支援説明会を開催
 - ・工学研究院が寄附分野「地域元素資源利活用工学分野」開設式・記者会見を開催
 - ・大学院水産科学研究院が「ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~」「海岸動物の行動生態学実 習:ヤドカリや巻貝が魅せる『奥の深い行動』を堪能しよう!」を開催
 - ・スラブ・ユーラシア研究センターがサマースクールを開催
 - ・スラブ・ユーラシア研究センターが2022年度夏期国際シンポジウム-2「ロシアにおけるメロドラマとメロドラマ的想像 力:新しい視点」を開催
 - ・静内研究牧場の「北大短角牛」が新ひだか町の学校給食に採用
 - ・国際連携研究教育局先住民・文化的多様性研究グローバルステーションのジョー・ワトキンス教授が総長と懇談

10月号 ・ 令和4年度分島亮研究奨励金授与式を挙行

- ・動物慰霊式を挙行
- ・医学部・歯学部合同慰霊式を挙行
- ・医学研究院医理工学グローバルセンターが国際シンポジウム「The 9th GCB Biomedical Science and Engineering Symposium」を開催
- ・医学研究院医理工学グローバルセンターが第5回GCB分子医理工学サマースクール及び第9回GCB医学物理サマースクー ルを開催
- ・豪州メルボルン大学と「ケーススタディアフタヌーン:豪州・日本からのスナップショット 高齢者向け統合アライド ヘルスケア」を開催
- ・歯学研究院で「若手研究者のための研究費申請書の書き方セミナー」を開催
- ・北海道大学病院が記者会見を実施~食塩不使用のロールパンを共同開発~
- ・農学院・農学部とシンガポール国立大学とのサマープログラム「Agri-Science in Japan and Singapore」を開催
- ・令和4年度水産学部公開講座「海をまるごとサイエンス!」が終了
- ・地球環境科学研究院が令和4年度公開講座「自然との共生-北海道の未来を見据えて」を実施
- ・スラブ・ユーラシア研究センターが「知の拠点【すぐわかアカデミア。】」に参加
- すぐにわかる境界地域研究~「端っこ」から国のかたちを考える~
- ・北方生物圏フィールド科学センター・札幌研究林が育てたアオダモの苗木300本を提供〜最強バットを未来に〜
- ・環境健康科学研究教育センターがマレーシア保健省の研究者に対して研修を実施
- ・環境健康科学研究教育センターが国際交流セミナーを開催
- 11月号 · 文学研究院FD「なぜ大学でジェンダー平等が必要なのか」を開催
 - ・経済学部が特別講演会「みんな参加型の循環型社会」を開催
 - ・経済学研究院が延世大学校商経大学と共同セミナーを開催
 - ・「社会体験ワークショップ」オープンコースウェアで公開
 - ~北海道大学、北洋銀行、大和総研による社会体験のための実践的授業~ ・北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム9期生採用式を開催
 - ・2022年度北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム(5期編入生)修了式を開催
 - ・総合博物館が博物館実習を実施

- ・獣医学研究院及び人獣共通感染症国際共同研究所が動物慰霊式を挙行
- ・水産学部附属練習船「うしお丸」Ⅱ世最終出港式を挙行
- ・国際広報メディア・観光学院がメルボルン大学、ビクトリア大学ウェリントン校との教育・研究交流「TLLPスタディ セッション」を開催
- ・メディア・コミュニケーション研究院が公開講座「近代日本語教科書を読む」を開催
- ・電子科学研究所創立30周年記念式典及び記念講演会を開催
- ・遺伝子病制御研究所が動物慰霊式を挙行
- ・附属図書館が「防災訓練」を実施
- ・スラブ・ユーラシア研究センター(境界研究ユニット)が総合博物館展示「ボーダーツーリズム」をリニューアル
- ・北方生物圏フィールド科学センターが紋別市との連携協定による出前授業を北海道紋別高等学校で開催
- ・第20回脳科学研究教育センターシンポジウム「脳を世界につなぐ」を開催

12月号 ・文学研究院がメルボルン大学と共同研究ワークショップを開催

- 経済学院・経済学研究院・経済学部が外国人留学生懇親会を開催
- ・経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催
- ・経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターがシンポジウムを開催
- ・生命科学院が「第8回生命科学国際シンポジウム」を開催
- ・工学系部局が自衛消防訓練等を実施
- ・工学系部局が救急救命講習会を開催
- ・医学研究院医理工学グローバルセンターが第6回医理工学院 学生研究発表会/第6回企業研究交流会を開催
- ・保健科学研究院公開講座「ようこそ!ヘルスサイエンスの世界へ」を開催
- ・保健科学研究院と環境健康科学研究教育センターが「HU-SNU-MU共同講義 Environmental Chemicals and Human Health(環境化学物質と人びとの健康)」をバンコクにて開催
- ・薬学研究院・薬学部が「実験動物慰霊祭」を挙行
- ・令和4年度薬学部成績優秀賞授与式を挙行
- ・水産学部附属練習船うしお丸Ⅲ世の竣工披露式を挙行
- ・函館キャンパスに地域水産業共創センターを設置
- ・地域水産業共創センターがキックオフイベント及び第1回地域懇話会を開催
- ・人獣共通感染症国際共同研究所が「第10回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議」をオンライン開催
- ・附属図書館で「文献収集セミナー (文系の方向け)」講習会を開催
- ・附属図書館で「Mendelev (メンデレー)」オンライン講習会を開催
- ・スラブ・ユーラシア研究センターが境界地域研究ネットワークJAPAN・竹富セミナー「危機のなかの境界地域」を共催 ~3年ぶりに対面開催~
- ・北方生物圏フィールド科学センターで畜魂祭挙行
- ・令和4年度レジリエント社会・地域共創シンポジウム「海溝型地震の被害想定と減災」(北海道大学広域複合災害研究セ ンター・読売新聞北海道支社・一般社団法人国立大学協会共催)を開催
- ・「脳科学研究教育センター研究発表会」の開催

※それ以外の項目については、記載を省略しています。

編集メモ

●11月14日(月)、工学研究院の江丸貴紀准教授の下に配送 ロボットが届けられました。今冬、中央道路と北13条通 りの車道を利用した配送ロボットの実証実験を行うため です。北海道の冬で避けては通れない「除雪」。この点

で、配送中にどういった課題が出るのかを今回の実証実 験で明らかにしていきたい、と江丸准教授は語ります。 実証実験中は一時停止等をお願いする場合もあるそう。 皆様のご協力を、どうぞよろしくお願いします。



厳重に梱包され届けられた配送ロボット

●京王プレリアホテル札幌において、朝食として北大食材 を使用したメニューが提供されることとなり、11月30日 (水)、報道関係者向けに試食会が開催されました。北大 食材を使用したメニューは3品で、「北大短角牛のオニオ ンスープとほっとけ栗たんビーフパイ」「北大短角牛と

余市産ブドウのビーフシチュー 北大農場から届いた男爵



江丸准教授と配送ロボット

イモのグラタンドフィノワーズ」「北大余市果樹園で 育った3種リンゴのタルトタタン 特製ミルクアイスクリー ム添え」を味わうことができます。朝食は1品ずつ日替わ りで、宿泊者以外も利用可能。12月31日(土)までの提 供です。



余市果樹園産のブドウの香り豊かなビーフシチュー



タルトタタンは3種のリンゴの食感と香りに特徴あり

裏表紙メモ

今月のキャンパス風景はフロンティア応用科学研究棟前です。師走に入り、あっという間に風景が様変わりした札幌キャン パス。本格的な冬の到来により、構内で転倒災害が多発しています。安全衛生本部が提供している「冬道ですべらない歩き 方」を読んで、十分に注意していきたいですね。

キャンパス風景 33 フロンティア応用科学研究棟前(北区北13条西8丁目)



北海道大学社会共創部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

 $\texttt{TEL}: (011) \ \ 706 - 2610 \ / \ \ \texttt{FAX}: (011) \ \ \ 706 - 2092 \ / \ \ \texttt{E-mail}: kouhou@jimu.hokudai.ac.jp}$

https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html